

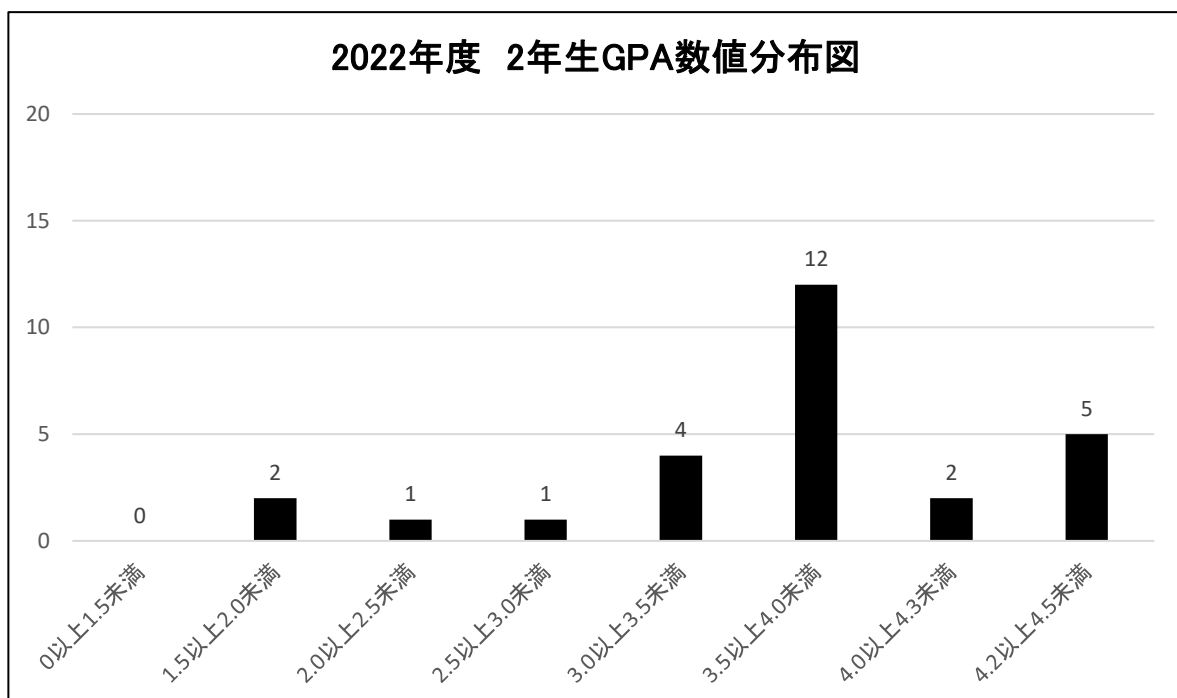
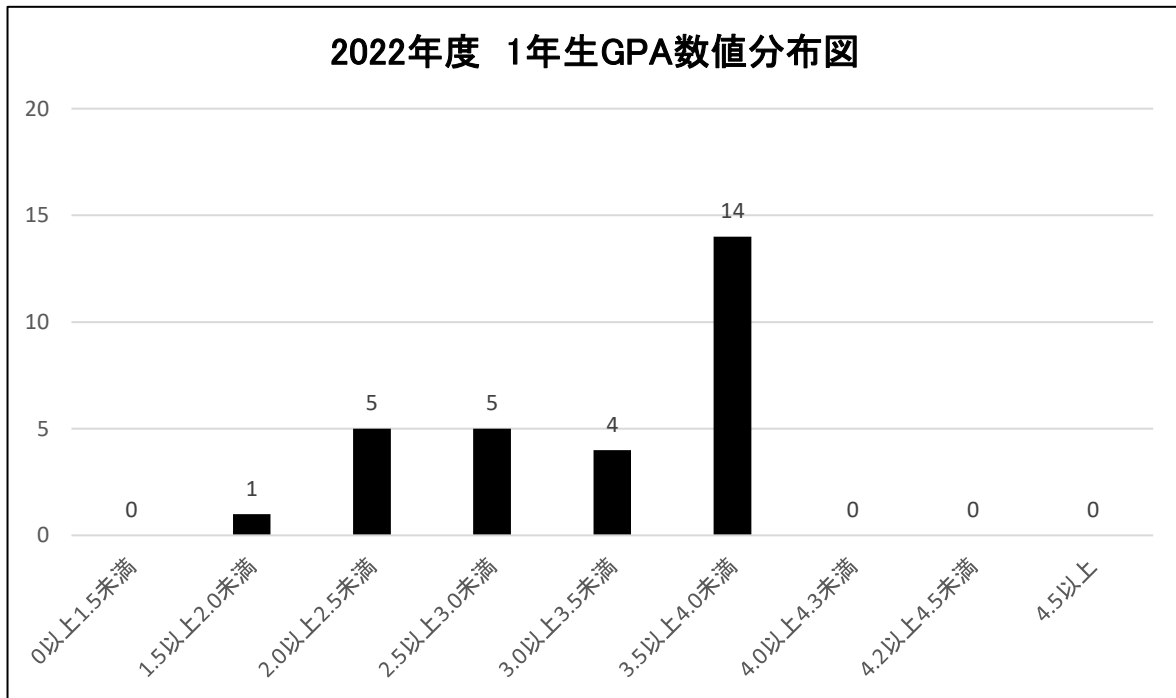
## 2022年度 GPA

2023年 帝京学園短期大学保育科

### 1. 概要

本学では、90点以上:5、80～89点:4、70～79点:3、60～69点:2、再試験合格:1として科目ごとにGPをつけている。本紙では、2022年度在学生のGPAについて、1年生及び2年生分を公表する。

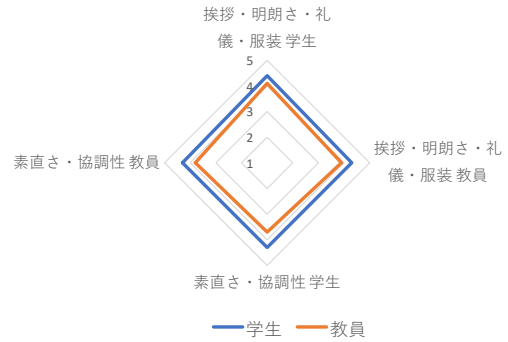
### 2. 結果



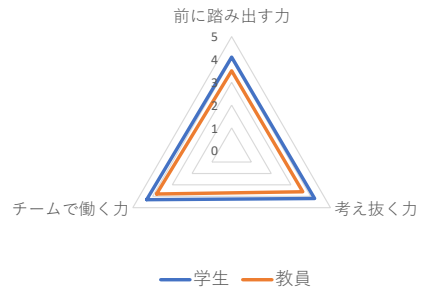
# 2022年度卒業生 学習成果 平均値

評価対象	評価観点	評価者	1年生		2年生	
			前期	後期	前期	後期
態度	挨拶・明朗さ・礼儀・服装	学生	3.7	3.7	4.2	4.4
		教員	3.7	3.5	3.8	4.1
	素直さ・協調性	学生	3.7	3.7	4	4.3
		教員	3.3	3.5	3.8	3.9
	意欲・積極性・責任感	学生	3.4	3.6	4	4.3
		教員	3.2	3.3	3.7	3.7
	協働性の理解	学生	3.5	3.8	4	4.3
		教員	3.3	3.5	3.7	3.8
社会人基礎力	前に踏み出す力	学生	3.2	3.5	3.7	4.1
		教員	3.1	3.3	3.3	3.5
	考え抜く力	学生	3.3	3.5	3.7	4.2
		教員	3.1	3.2	3.4	3.6
	チームで働く力	学生	3.5	3.9	3.9	4.3
		教員	3.3	3.5	3.7	3.8

2022年度卒業生（2021年度入学）ジェネリック・スキル（態度）の平均

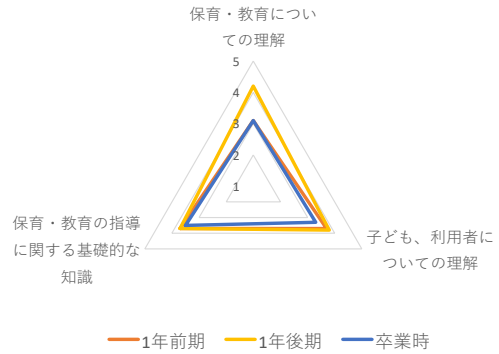


2022年度卒業生（2021年度入学）ジェネリック・スキル（社会人基礎力）の平均



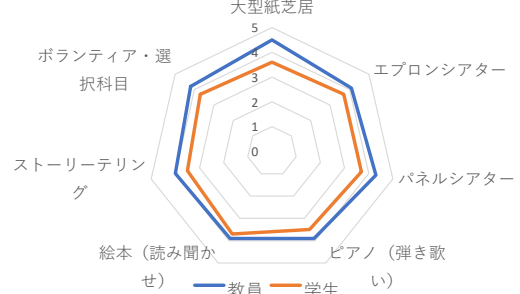
評価対象	評価観点	1年前期	1年後期	卒業時
知識	保育・教育についての理解	3.1	4.2	3.1
	子ども、利用者についての理解	3.7	3.8	3.3
	保育・教育の指導に関する基礎的な知識	3.7	3.7	3.5

2022年度卒業生（2021年度入学）知識の平均



評価対象	評価観点	評価者	平均値
技能・実践力	大型紙芝居	学生	3.6
		教員	4.5
	エプロンシアター	学生	3.7
		教員	4.1
	パネルシアター	学生	3.7
		教員	4.3
	ピアノ（弾き歌い）	学生	3.5
		教員	3.9
	絵本（読み聞かせ）	学生	3.7
		教員	3.9
	ストーリーテリング	学生	3.5
		教員	4
ボランティア・選択科目	学生	3.7	
	教員	4.2	

2022年度卒業生（2021年度入学）技能・実践力の平均



## 1. 概要

本学では学習成果を「ジェネリック・スキル（態度・社会人基礎力）」、「専門性/知識」、「専門性/技能・実践力」を3つに据えており、その獲得を検証するにあたりそれぞれのルーブリック評価表を用いることで評価することとしている。「ジェネリック・スキル（態度・社会人基礎力）」は、学生による自己評価及び教員による個別評価を同一のルーブリック評価表にて比較している。「専門性/知識」は、学年の終わりに各教科目の成績をもとにした科目群のGP(A)を算出し、ルーブリック評価表に照らしている。「専門性/技能・実践力」は、在学期間中に体験する実践的な学習場面への取り組みに対して同一のルーブリック評価表を用い、学生による自己評価及び教員による個別評価を照らしている。各種ルーブリック評価表によって継続的に検証を行うことで、学生が現時点での自身の実績に加えて今後の見通しとなる課題を明確にし、2年間を通じて向上させることを目指している。

また、2年間の教育課程の柱となる各種実習「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習Ⅱ（保育所）」あるいは保育実習Ⅲ（児童館）」、「教育実習（幼稚園）」が、学習成果の獲得状況を客観的に検証する場面であると捉え、これも同一（実習に応じて用語・文言を整理している）のルーブリック評価表にて学生の自己評価と比較することで、実社会（就職後）に求められる能力の修得である「実学」の質を確保している。

## 2. 考察

### (1) ジェネリック・スキルについて

#### ・ジェネリック・スキル/態度

1年生を通じて、1~4のすべての観点において3.4~3.8に評価されている。1年生の段階では学生が自身のスキルをどのように評価して良いのか判断することが難しく、おおよそ中心的な点で評価をしたものと考えられる。例えば、評価値3では主として自身の態度を理解して行動する能力が問われていることに対して、評価値4では、概念として礼儀や協調性などの各態度を理解していることが求められている。このことから、この段階では保育現場や福祉施設での実習経験がなく、客観的に自身の能力を捉えることが難しいのではないかと考える。

また、2年生では4.0~4.4に評価され、1年生の頃と比べて全体的に評価が高まっている。特に2年生前期と比して後期の評価が高いことから、実習等2年間の体験を振り返り、ルーブリック評価表上で自身の歩みを実感して自己評価を高めたものと考えられる。その一方、教員評価は3.7~4.1と、学生の自己評価と比べて全体的に低い。1年生の頃の教員評価と比べると全体的に向上しているものの、いずれも学生の自己評価が高く、教員は社会人として求められるジェネリック・スキル/態度についてより高い水準を求めていることが考えられる。ただし、いずれの項目も3.7以上の評価であることから、学生のジェネリック・スキル/態度に大きな問題を感じているのではなく、より質の高いジェネリック・スキルの獲得を目指した評価であると考えられる。

#### ・ジェネリック・スキル/社会人基礎力

1年生を通じて、1~4のすべての観点において3.1~3.9に評価されている。1年生の段階では学生が自身のスキルをどのように評価して良いのか判断することが難しく、おおよそ中心的な点で評価をしたものと考えられる。ここでは、各項目について「おおむね発揮されていて問題なかった」を評価値3、「申し分なく発揮されていた」を評価値4としている。この段階では保育現場や福祉施設での実習経験が少なく、客観的に自身の能力を捉えることが難しいことから、学生は自身がスキルの獲得を問題視しているわけではないが、十分に発揮されたとは評価できるほど自信を持っているとは言えない状況が読み取れる。

また、2年生では3.7~4.4に評価され、1年生の頃と比べて全体的に評価が高まっている。特に2年生前期と比して後期の評価が高いことから、ジェネリック・スキル/態度と同様に実習等2年間の体験を振り返り、ルーブリック評価表上で自身の歩みを実感して自己評価を高めたものと推察される。一方で、全体を通じてジェネリック・スキル/態度と比べて控えめに評価していることからジェネリック・スキル/社会人基礎力では自身の課題を冷静に評価しているものと考えられる。また、教員評価は3.4~4.1と、学生の自己評価と比べて全体的に低い。ただし、1年生の頃の教員評価と比べると2年生では全体的に向上しており、学生の自己評価に対して冷静な評価ではあるものの、2年間を通じてジェネリック・スキル/社会人基礎力の獲得を教員の目からも実感している様子が伺える。

### (2) 専門性/知識について

#### ・「保育・教育についての理解」に該当する科目は次のとおりである

教育学概論、保育者論、保育原理Ⅰ、子ども家庭福祉、子ども家庭支援論、社会福祉、社会的養護Ⅰ、社会的養護Ⅱ、保育原理Ⅱ、子育て支援

#### ・「子ども利用者についての理解」に該当する科目は次の通りである

発達心理学Ⅰ、子ども家庭支援の心理学、特別支援教育論、子どもの理解と援助、教育相談、子どもの保健、子どもの食と栄養、子ども家庭福祉、教育の方法と技術、教育相談、保育原理Ⅱ、発達心理学Ⅱ

#### ・「保育・教育の指導に関する基礎的な知識」に該当する科目は次の通りである

子どもと健康、子どもと人間関係、子どもと環境、子どもと言葉、子どもと表現、保育内容演習（健康、人間関係、環境、言葉、表現Ⅰ、表現Ⅱ）、保育内容総論、教育課程・保育の計画と評価

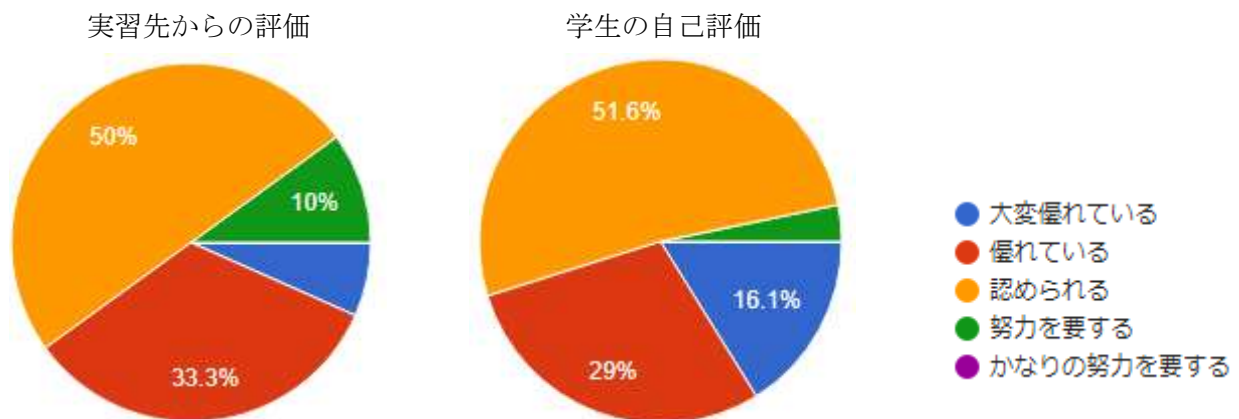
### (3) 専門性/技能・実践力について

専門性/技能・実践力の査定に用いる全ての活動において、学生の自己評価に比して教員評価が高い結果となった。これら一つ一つの活動は、各教科目の課題として取り組んでいるものである。学生は、授業で提示された課題について長期休業中や授業時間外に各自で取り組み、創意工夫を凝らしてオリジナルの作品を作っている。また、完成した作品は授業の中で他の学生の前で発表している。学生の自己評価は作品を発表した際に記入されたものであるが、発表時に他の学生の作品や発表する姿を目の当たりにすることで自身の作品の改善点や発表に対する課題点を強く感じ、全体的に控えめな自己評価となったのではないかと考える。一方、教員の評価が学生の自己評価に比して全体的に高い。この教員による評価もまた各学生が発表した際に記入されたものである。教員はより俯瞰的な視点で各学生の作品の工夫点や出来栄を評価し、発表そのものについても学生全体の発表を参考にして客観的に評価していた。その他、教員は制作途中にある作品について学生から相談を受けることも多く、発表に至るまでの経緯や努力して一つの作品を完成させてきたことを踏まえた（含んだ）評価をしていると考えられる。これらの要素によって、教員による評価が全体的に学生の自己評価を上回ったのではないかと考える。

1. 結果

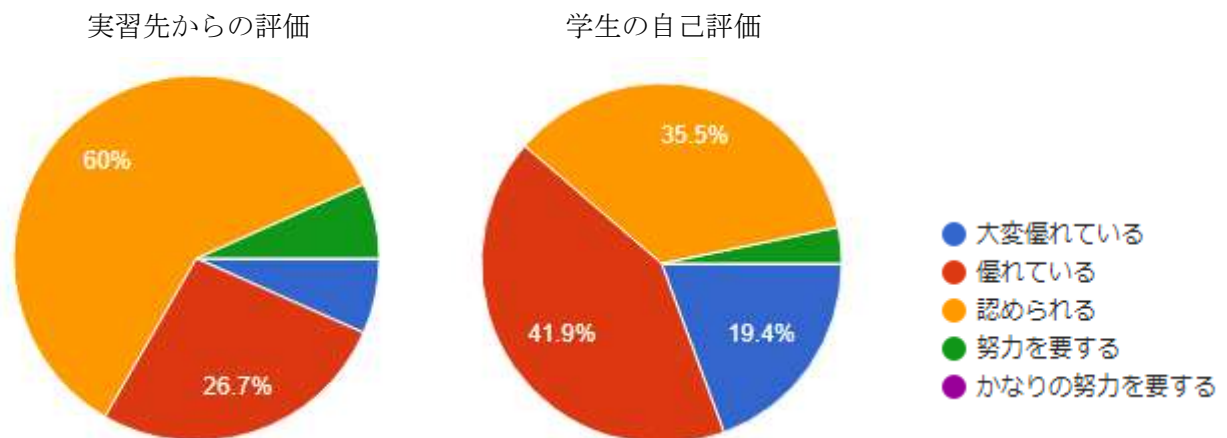
(1) <知識・技能> (1)保育についての理解

- ・保育所の目的・意義を理解している
- ・保育士の役割、援助や関わり、職業倫理を理解している



(2) <知識・技能> (2)子どもの発達理解

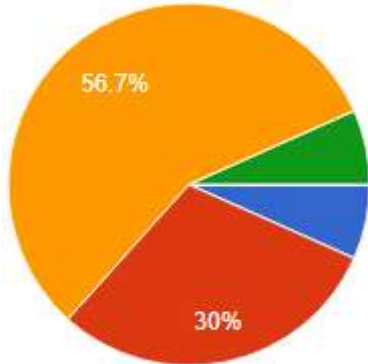
- ・子どもの心理的・身体的な発達過程について理解している
- ・子どもの安全や健康状態の把握に努めている



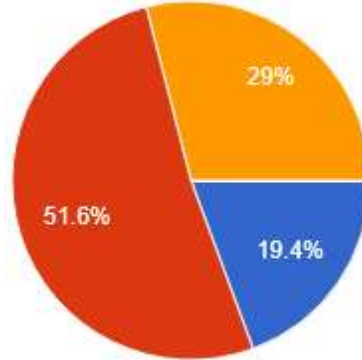
(3) <知識・技能> (3)保育環境の理解

- ・ 保育の環境（1日の流れ）を理解している
- ・ 保育所保育指針を理解している

実習先からの評価



学生の自己評価

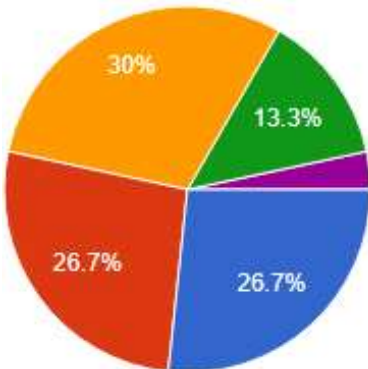


- 大変優れている
- 優れている
- 認められる
- 努力を要する
- かなりの努力を要する

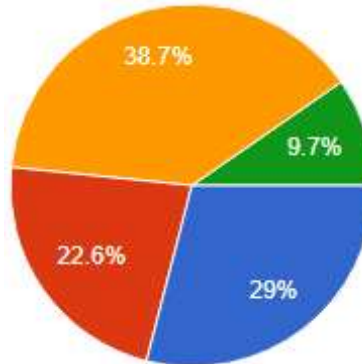
(4) <知識・技能> (4)保育の観察・記録

- ・ 子どもとの関わりを日誌などに具体的に記録することができる
- ・ 日々の関わりの中で気づきがあり次の目標につなげることができる

実習先からの評価



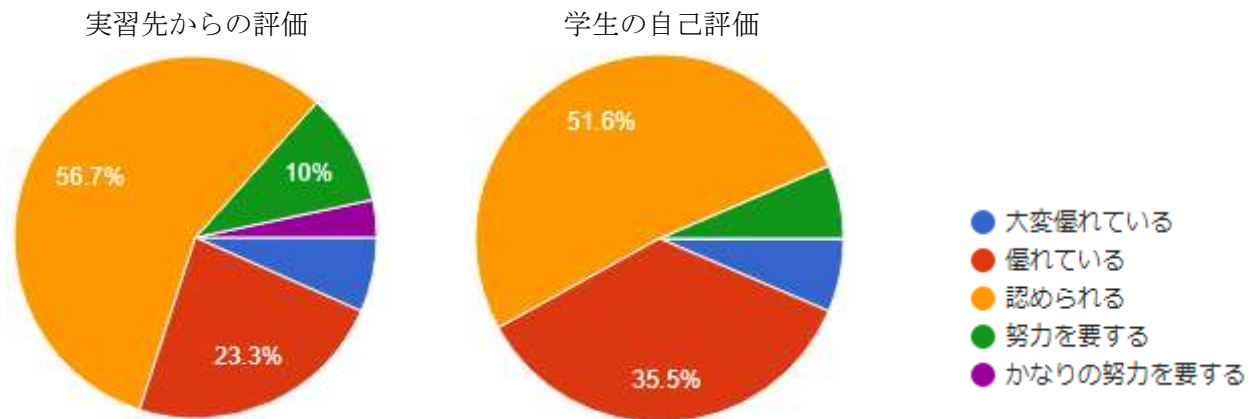
学生の自己評価



- 大変優れている
- 優れている
- 認められる
- 努力を要する
- かなりの努力を要する

(5) <知識・技能> (5)指導計画の理解

- ・子どもの発達や保育所保育指針などの基礎的な知識を基に指導計画の立て方を理解している



(6) <態度> (1)挨拶・明朗さ・礼儀・服装

- ・明るく元気に挨拶し、適切な言葉で対応することができる
- ・礼儀をわきまえて行動できる
- ・保育士として、清潔で動きやすい服装である



(7) <態度> (2)素直さ・協調性

- ・他者の言うことを素直に聞き、指導に従うことができる



(8) <態度> (3)意欲・積極性

- ・わからないことを積極的に質問することができる
- ・指導者からの指示を待つばかりでなく、自分から行動できる
- ・積極的に子どもと関わろうとしている



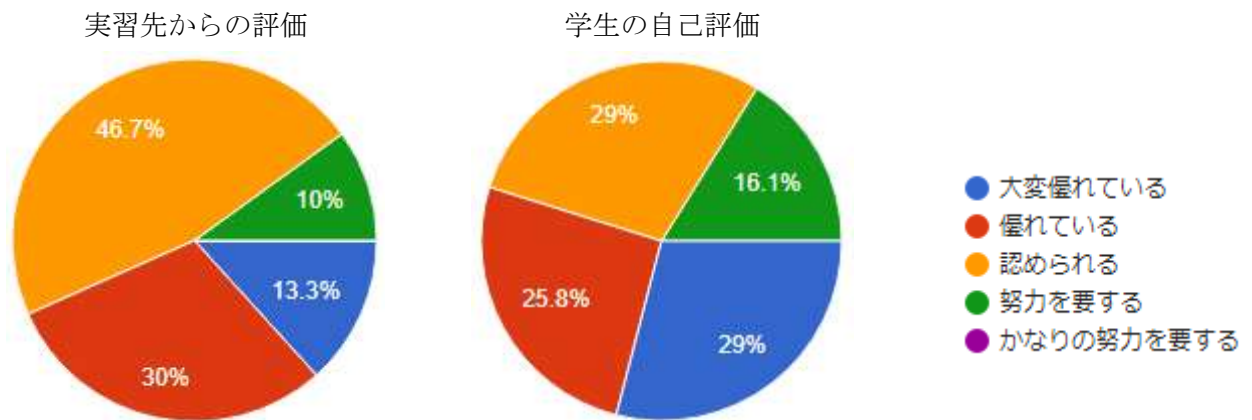
(9) <態度> (4)責任感

- ・計画的に行動し、提出物などの期限を守れる
- ・与えられた役割を期限までにきちんとかなすことができる



(10) <態度> (5)協働性の理解

- ・自分勝手に判断せず、わからないことは指導者に助言を求めている
- ・報告、連絡、相談を必要に応じてできる

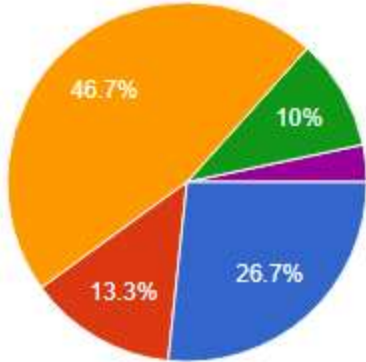




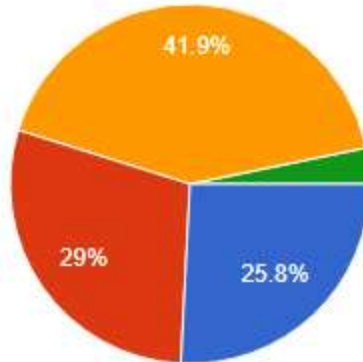
(11) <実践力> (1)保育実践

- ・ 自己の課題を考察し、記録できる

実習先からの評価



学生の自己評価

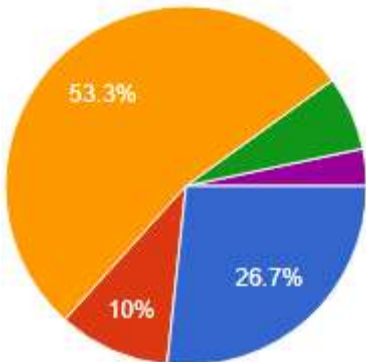


- 大変優れている
- 優れている
- 認められる
- 努力を要する
- かなりの努力を要する

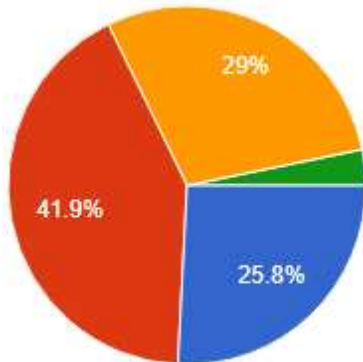
(12) <実践力> (2)学びへの探究心

- ・ 多様な課題を認識できる
- ・ 指導者の助言に基づき、学びを深めている

実習先からの評価



学生の自己評価



- 大変優れている
- 優れている
- 認められる
- 努力を要する
- かなりの努力を要する

## 2. 結果の分析

### (1) 全 体

どの項目も実習先からの評価と自己評価との大きな乖離は見られない。全体的に実習先からは、良い評価をもらっているので、事前指導では特に問題になることはない。

### (2) 項目別

少しの乖離が見られる項目についてみる。

#### <知識・技能>

##### ◎保育環境の理解

自己評価では、全員が”普通にできている”以上の評価をしているが、実習先からは、”努力を要する”と評価されている学生が7.1%いる。

⇒色々な教科で保育所保育指針は取り上げているが、保育所保育の基本であるため、実習前の長期休みにもう一度読み込むよう指導する。

##### ◎保育の観察・記録

自己評価では、”全くできていない”と評価する学生はいないが、実習先からは、”かなりの努力を要する”と評価されている学生がいる。

⇒学生が考える日誌の書き方と実習先が求める日誌の書き方とに差があることを理解させ、引き続き学内の教員と連携しながら、文章を書くことに力を入れ、読書や課題等で文章を読むこと、書くことを日頃から取り入れていく。

##### ◎指導計画の理解

自己評価では、”全くできていない”と評価する学生はいないが、実習先からは、”かなりの努力を要する”と評価されている学生がいる。

⇒基本は、保育所保育指針の理解となるため、保育環境の理解と同様に、実習前の長期休みにもう一度読み込むよう指導する。

#### <態度>

##### ◎挨拶・明朗さ・礼儀・服装

自己評価では、全員が”普通にできている”以上の評価をしているが、実習先からは、”努力を要する”と評価されている学生が14.3%いる。

⇒入学当初よりジェネリックスキルについては指導しており、実習の事前指導でも強調して指導している項目である。巡回での話や評価表を見ると、明るさ・元気さがないため、挨拶しても声が届かない、存在が薄い、と評されている。性格が大人しいから、ではすまない職業であるため、個人的にも声をかけながら日常から意識できるようにする。

#### <保育実践>

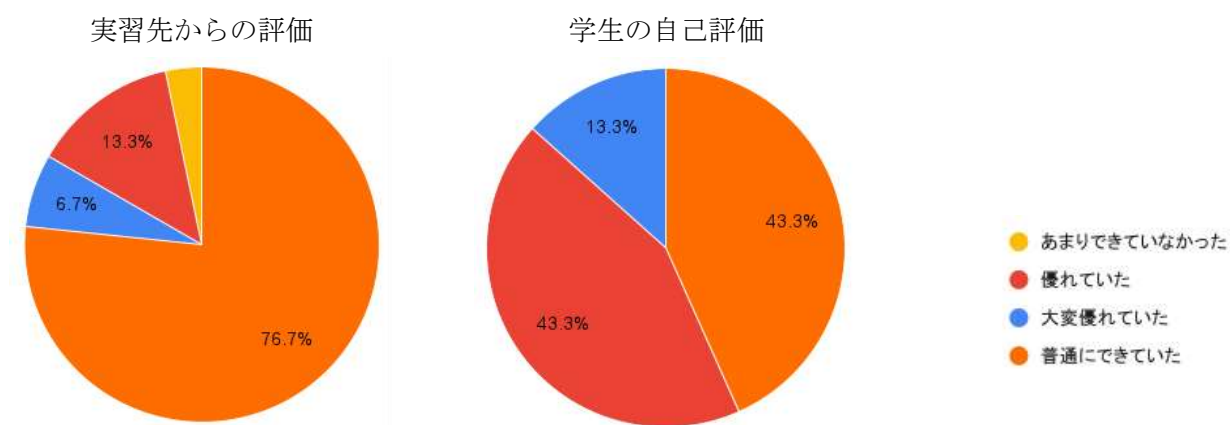
保育実践で全般的に、若干ではあるが、学生と実習先での評価に差が見られる。

⇒課題・考察・探究心がキーワードになるが、実習のみならず学内の授業でもアクティブラーニングを重視し、保育者としての学びを追求する力を付けていく。

1. 結果

(1) <知識・技能> ①保育についての理解

- ・施設の目的・意義を理解している
- ・保育士の役割、援助や関わり、職業倫理を理解している



(2) <知識・技能> 子ども（利用児者）の発達理解

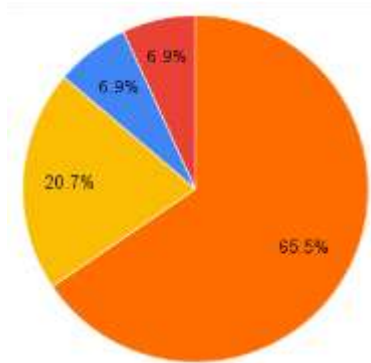
- ・子ども（利用児者）の心理的・身体的な発達過程について理解している
- ・子ども（利用児者）の安全や健康状態の把握に努めている



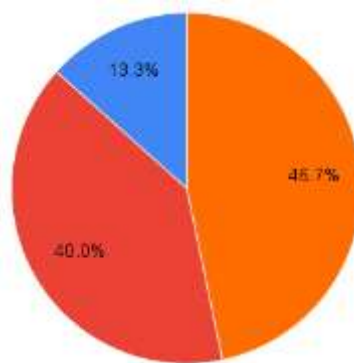
(3) <知識・技能> 保育（支援）環境の理解

- ・保育（支援）の環境（1日の流れ）を理解している
- ・各種関係法令等を理解している

実習先からの評価



学生の自己評価

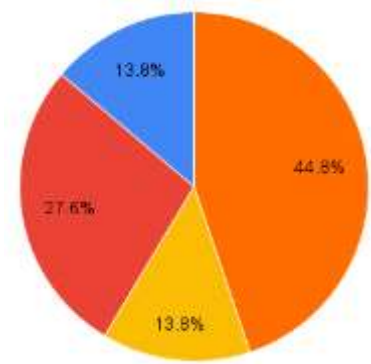


- あまりできていなかった
- 優れていた
- 大変優れていた
- 普通にできていた

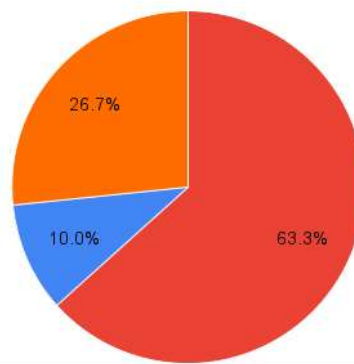
(4) <知識・技能> 保育（支援）の観察・記録

- ・子ども（利用者）との関わりを日誌などに具体的に記録することができる
- ・日々の関わりの中で気づきがあり次の目標につなげることができる

実習先からの評価



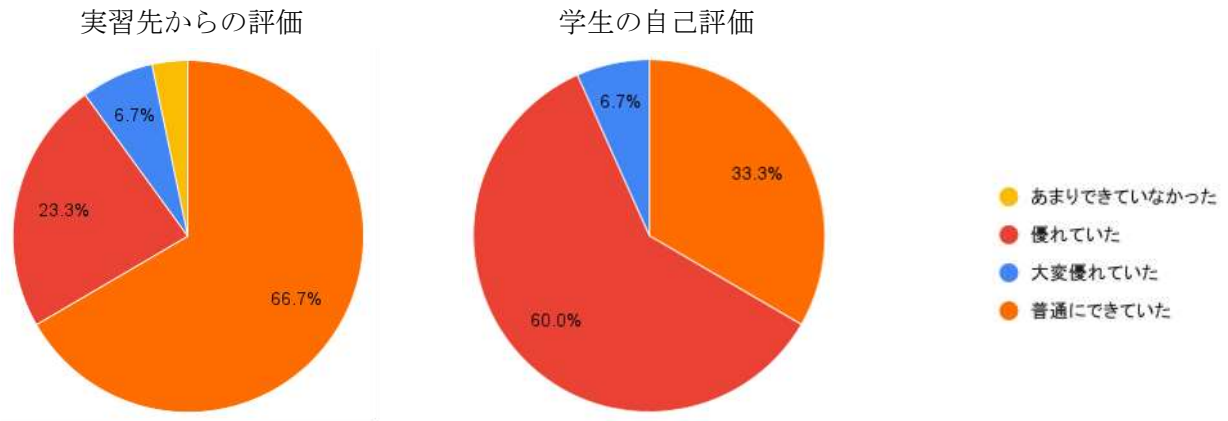
学生の自己評価



- あまりできていなかった
- 優れていた
- 大変優れていた
- 普通にできていた

(5) <知識・技能> 指導計画（支援計画）の理解

- ・子ども（利用児者）の発達や各種関係法令等の基礎的な知識を基に指導計画（支援計画）の立て方を理解している



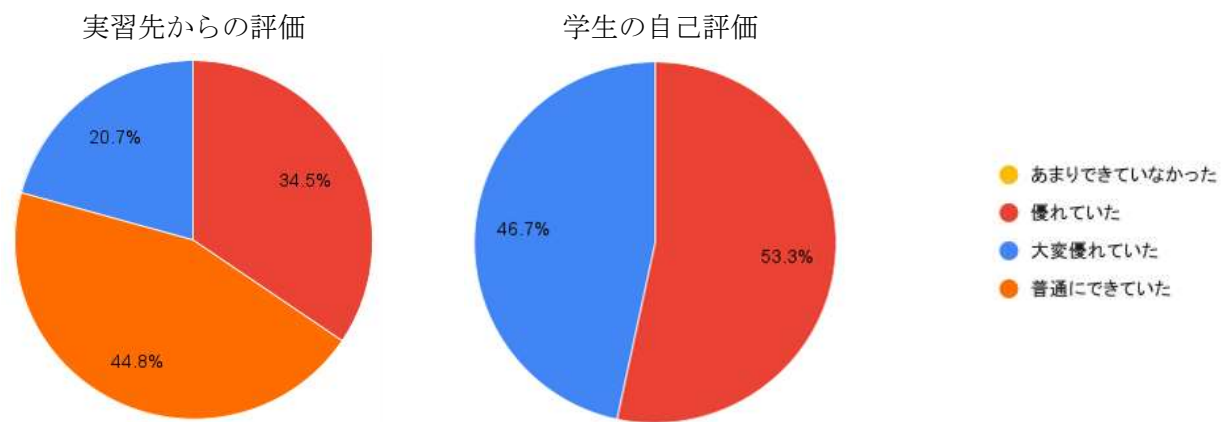
(6) <態度> 挨拶・明朗さ・礼儀・服装

- ・明るく元気に挨拶し、適切な言葉で対応することができる
- ・礼儀をわきまえて行動できる
- ・保育士として、清潔で動きやすい服装である



(7) <態度> 素直さ

- ・協調性・他者の言うことを素直に聞き、指導に従うことができる



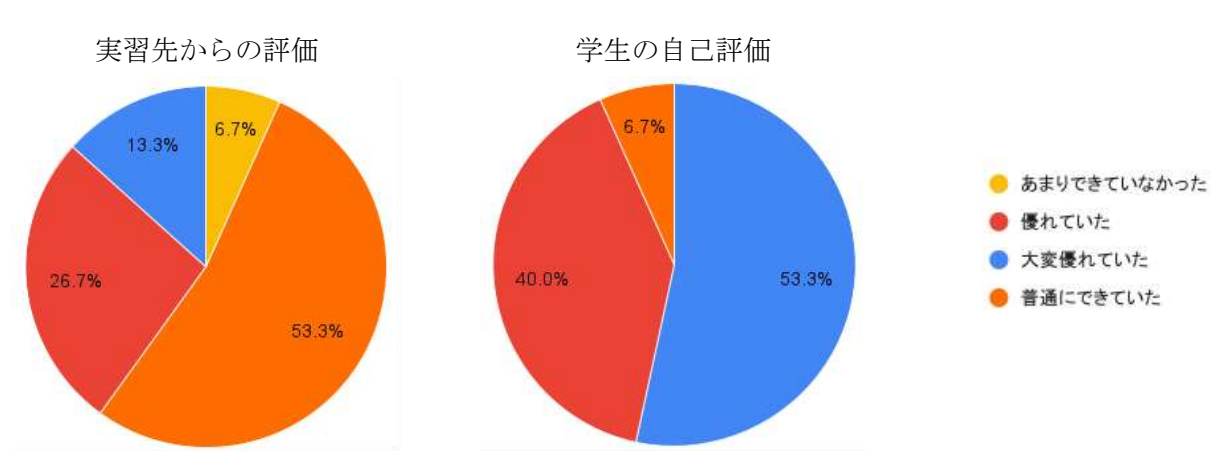
(8) <態度> 意欲・積極性

- ・わからないことを積極的に質問することができる
- ・指導者からの指示を待つばかりでなく、自分から行動できる
- ・積極的に子どもと関わろうとしている



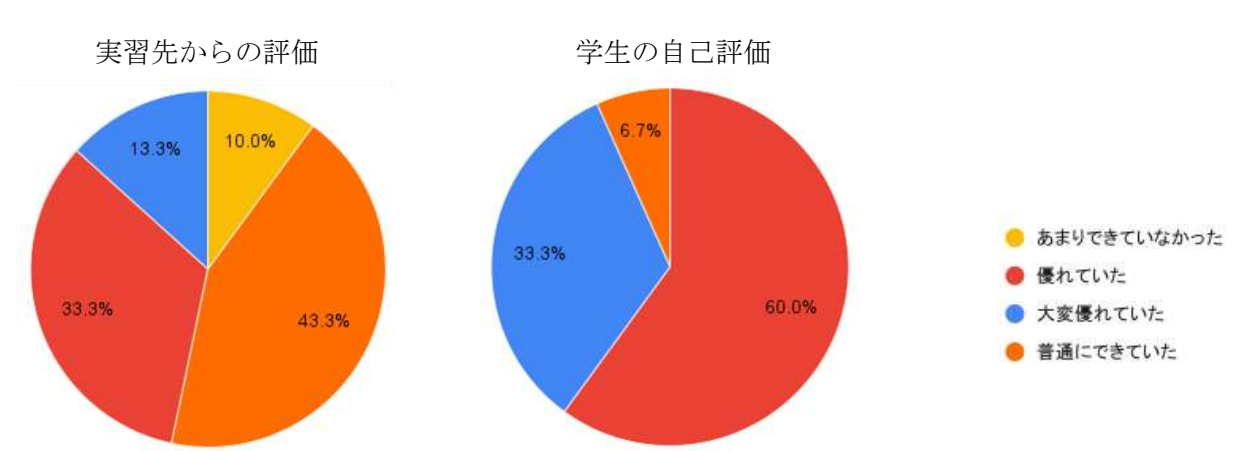
(9) <態度> 責任感

- ・計画的に行動し、提出物などの期限を守れる
- ・与えられた役割を期限までにきちんとかなすことができる



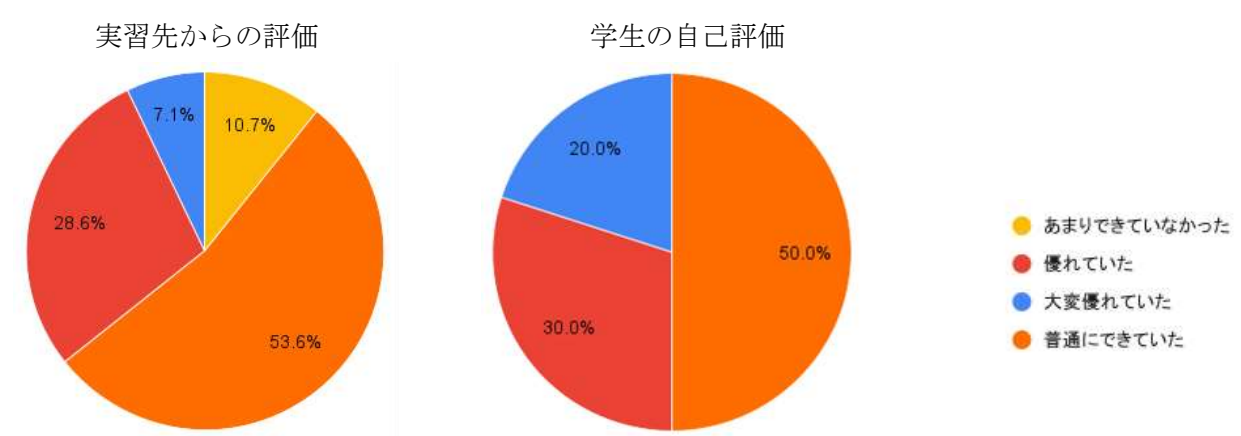
(10) <態度> 協働性の理解

- ・自分勝手に判断せず、わからないことは指導者に助言を求めている
- ・報告、連絡、相談を必要に応じてできる



(11) <実践力> 保育実践

- 自己の課題を考察し、記録できる



(12) <実践力> 学びへの探究心

- 多様な課題を認識できる
- 指導者の助言に基づき、学びを深めている





## 2. 結果の分析

### (1) 全体

- ① 全て項目において実習先施設からの評価に比して学生による自己評価が高く、「実習生として大変優れている」「実習生として優れている」の占める割合が大きい。一部の項目では、施設からの評価に対して学生の自己評価が特に高く、乖離が観られた。

### (2) 項目別

施設からの評価と学生による自己評価で「大変優れていた」及び「優れていた」の評価が特に大きく乖離していた「(7)＜態度＞素直さ・協調性」、「(9)＜態度＞責任感」「(10)＜態度＞協働性の理解」について記述する。

#### ① (7)＜態度＞素直さ・協調性

学生による自己評価では、「大変優れていた」、「優れていた」が全ての回答であり、ポジティブな評価であった。一方、実習先施設からは「適切である」の回答が約5割を占めており、学生の回答と比してより冷静な評価であった。

学生は、実習に向けた心構えや実習時に求められる社会人としての基礎的なマナーについて、事前指導を通して学習し実習に挑んでいが、実習先ではそれ以上の責任感を期待している、あるいはそれとは異なる責任感を期待していることが考えられる。一方で、素直さや協調性については、特に気になる点等が無ければ「普通にできている」という印象を受けるものであることも考えられる。実習中に特に問題を感じなかった場合に「適切であった」と評価を受ける可能性も否めない。

いずれにしても、「実習生として努力を要する」や「実習生としてかなりの努力を要する」のネガティブな評価を得ていないことから、ここでは大きな問題はなかったのだろうと考えるが、大学としても次年度の保育実習連絡協議会や実習中の巡回指導時を活用して実習先施設と協議し、実習先施設が求める「実習生としての責任感」を把握した事前指導を行いたいと考える。

#### ② (9)＜態度＞責任感

学生による自己評価では、「大変優れていた」、「優れていた」が9割を超えており、おおむねポジティブな評価であった。一方、実習先施設からは「大変優れていた」「優れていた」の回答が全体の約4割に、また「実習生として努力を要する」の回答も観られ、学生の回答と比してより特に冷静な評価であった。

責任感の内訳としては、計画的な行動、提出物等の期限厳守、役割をこなす等の要素が含まれる。これを踏まえると、実習中に体験する活動の意図や計画を理解して自らも行動することや、実習日誌等の提出物の提出状況、実習生に任せられた職務・業務への取り組みの様子に課題があったと考えられる。実習の事前指導においても、実習生としての最も初歩的な理解として指導している部分でもあるため、今一度指導内容を見直し、今後より重点を置いて事前指導を行いたい。

#### ③ (10)＜態度＞協働性の理解

学生による自己評価では、「大変優れていた」、「優れていた」、「適切であった」が全ての回答であり、いずれもポジティブな評価であった。特に、「大変優れていた」「優れていた」の回答が全体の9割を超えていた。一方、実習先施設からは「適切であった」の回答が約4割を占め、一部には「実習生として努力を要する」との回答もあり、学生の回答と比してより冷静な評価であった。

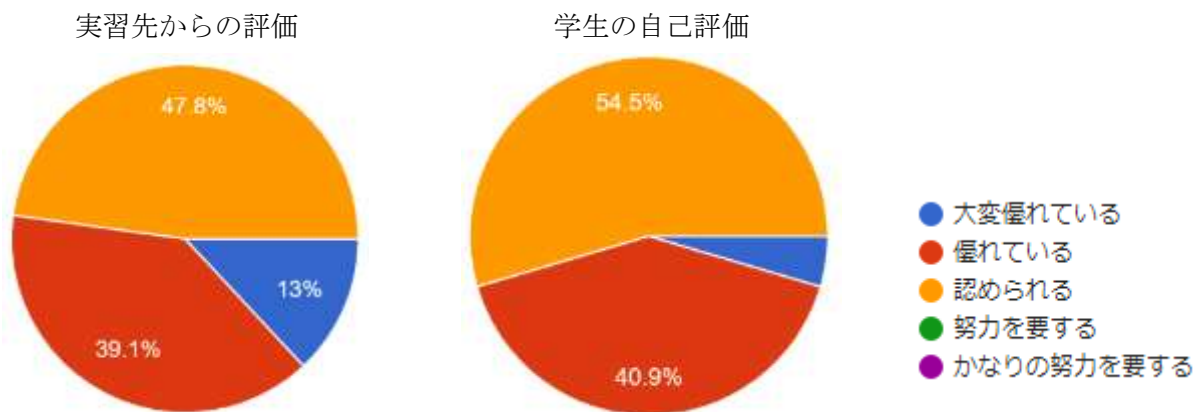
協働性の理解の内訳としては、指導者に対する報告・連絡・相談、質問やアドバイスを受ける等

の積極的な姿勢の要素が含まれる。責任感について前述した「実習中に体験する活動の意図や計画の理解」や「任せられた職務・業務への取り組みの様子」が課題として挙がる原因の一つとして指導者に対する報告・連絡・相談や質問等の積極的な姿勢の少なさがあると考え。実習生としてはそつなく取り組んでいるという認識であっても、実習先ではそれ以上の成果を期待していることから、学内での事前指導においても重要視したい。また、実習日誌の提出期限の厳守についても課題が潜在している可能性も考えられることから、提出物の期限内提出も含めてジェネリック・スキル指導と併せて学内指導を重視していきたいと考える。

1. 結果

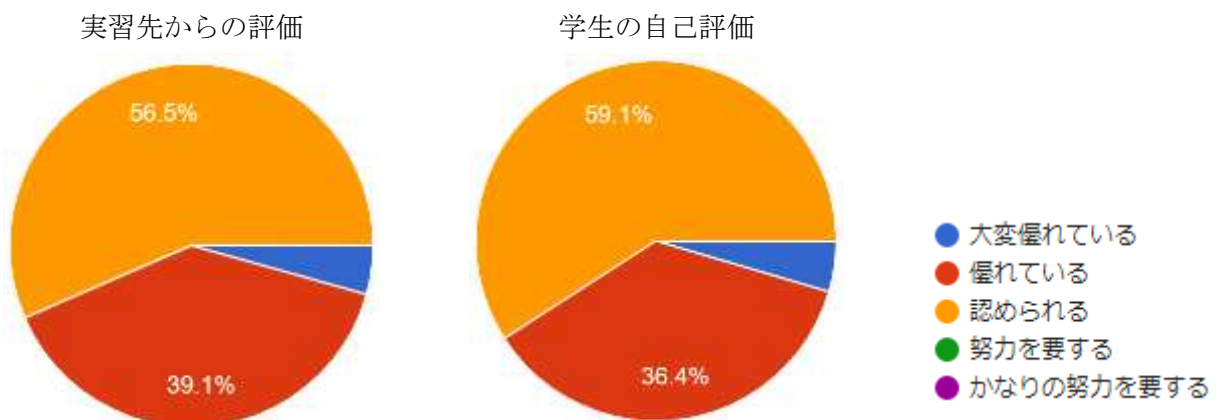
(1) <知識・技能> (1)保育についての理解

- ・ 保育所の目的・意義を理解している
- ・ 保育士の役割、援助や関わり、職業倫理を理解している



(2) <知識・技能> (2)子どもの発達理解

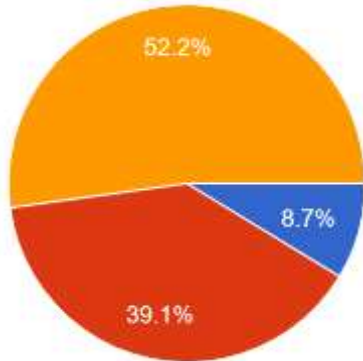
- ・ 子どもの心理的・身体的な発達過程について理解している
- ・ 子どもの安全や健康状態の把握に努めている



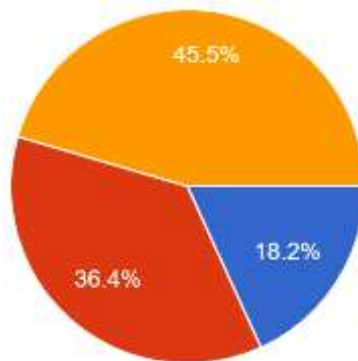
(3) <知識・技能> (3)保育環境の理解

- ・ 保育の環境（1日の流れ）を理解している
- ・ 保育所保育指針を理解している

実習先からの評価



学生の自己評価

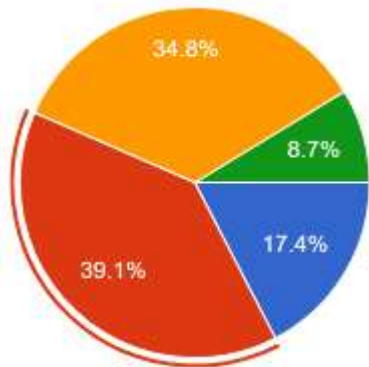


- 大変優れている
- 優れている
- 認められる
- 努力を要する
- かなりの努力を要する

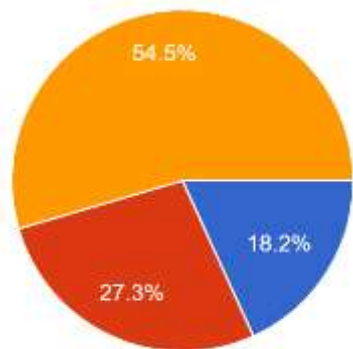
(4) <知識・技能> (4)保育の観察・記録

- ・ 子どもとの関わりを日誌などに具体的に記録することができる
- ・ 日々の関わりの中で気づきがあり次の目標につなげることができる

実習先からの評価



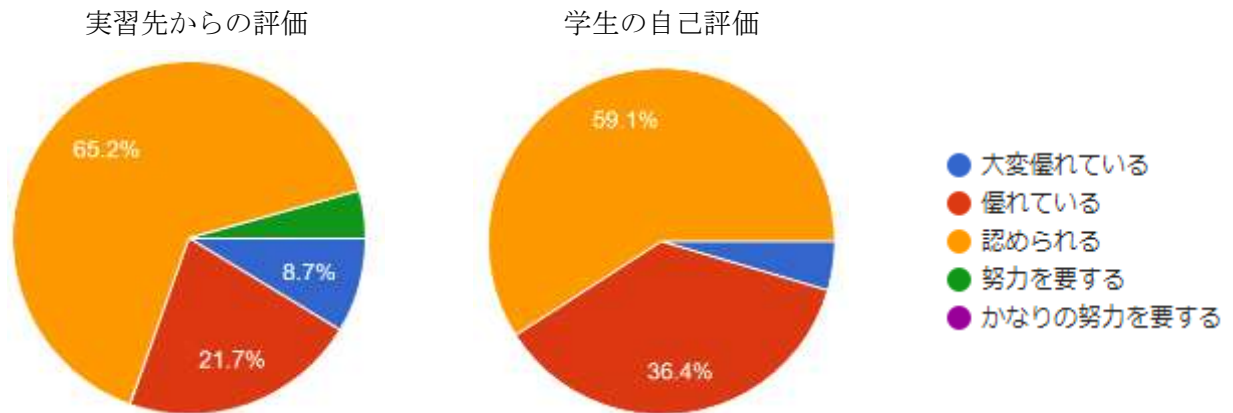
学生の自己評価



- 大変優れている
- 優れている
- 認められる
- 努力を要する
- かなりの努力を要する

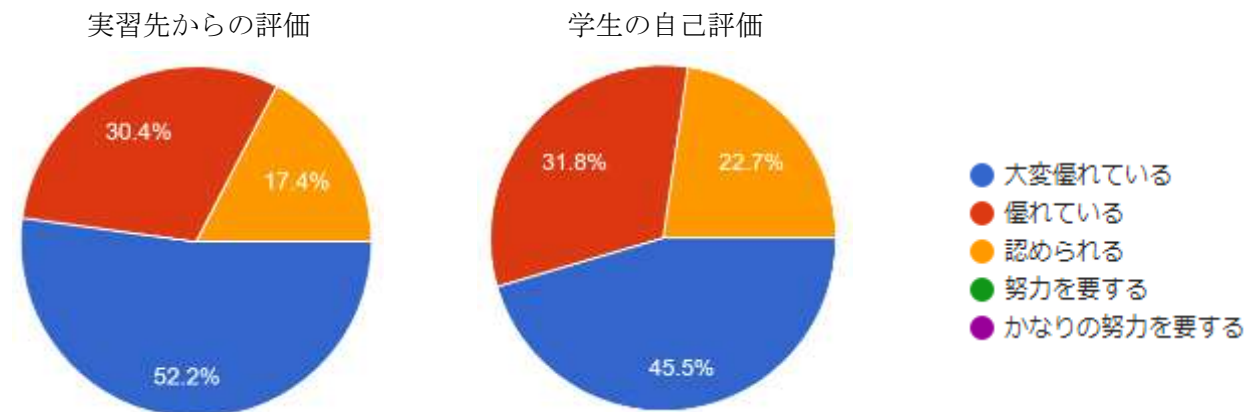
(5) <知識・技能> (5)指導計画の理解

- ・子どもの発達や保育所保育指針などの基礎的な知識を基に指導計画の立て方を理解している



(6) <態度> (1)挨拶・明朗さ・礼儀・服装

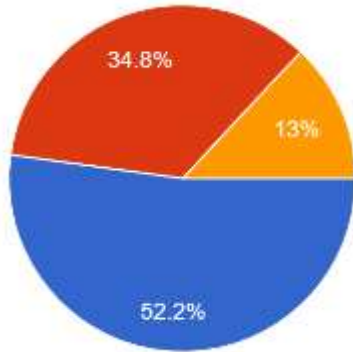
- ・明るく元気に挨拶し、適切な言葉で対応することができる
- ・礼儀をわきまえて行動できる ・保育士として、清潔で動きやすい服装である



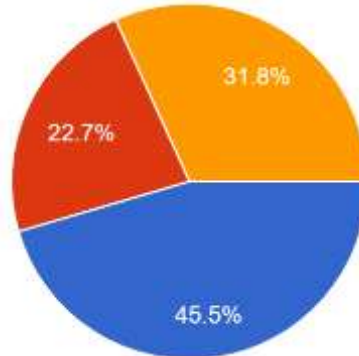
(7) <態度> (2)素直さ・協調性

- ・他者の言うことを素直に聞き、指導に従うことができる

実習先からの評価



学生の自己評価

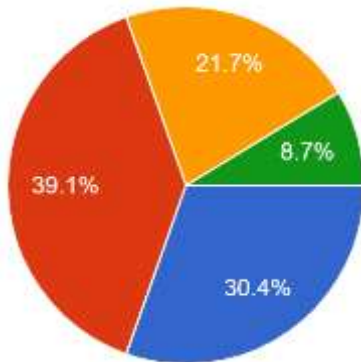


- 大変優れている
- 優れている
- 認められる
- 努力を要する
- かなりの努力を要する

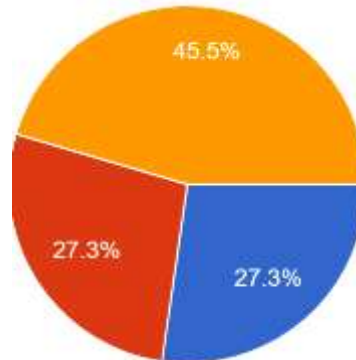
(8) <態度> (3)意欲・積極性

- ・わからないことを積極的に質問することができる
- ・指導者からの指示を待つばかりでなく、自分から行動できる
- ・積極的に子どもと関わろうとしている

実習先からの評価



学生の自己評価



- 大変優れている
- 優れている
- 認められる
- 努力を要する
- かなりの努力を要する

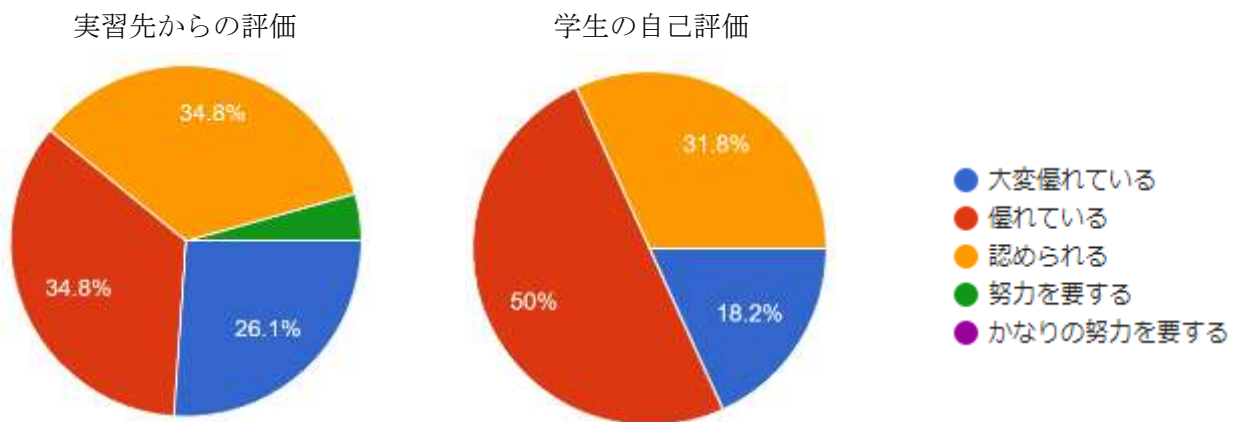
(9) <態度> (4)責任感

- ・計画的に行動し、提出物などの期限を守れる
- ・与えられた役割を期限までにきちんとかなすことができる



(10) <態度> (5)協働性の理解

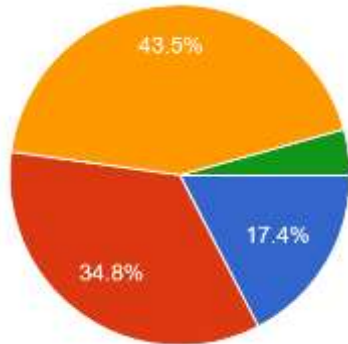
- ・自分勝手に判断せず、わからないことは指導者に助言を求めている
- ・報告、連絡、相談を必要に応じてできる



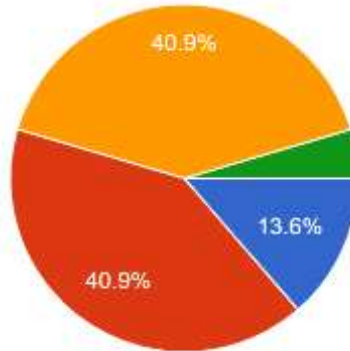
(11) <実践力> (1)保育実践

- ・ 自己の課題を考察し、記録できる

実習先からの評価



学生の自己評価

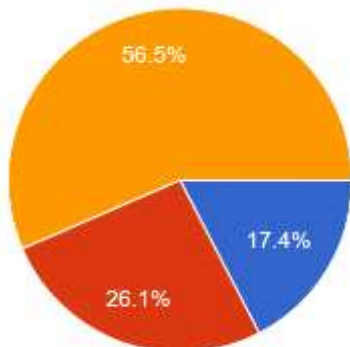


- 大変優れている
- 優れている
- 認められる
- 努力を要する
- かなりの努力を要する

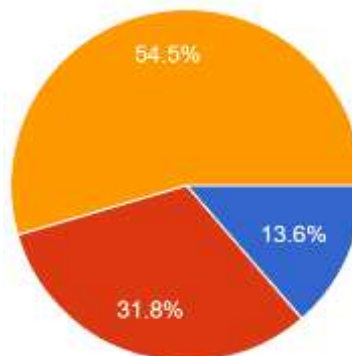
(12) <実践力> (2)学びへの探究心

- ・ 多様な課題を認識できる
- ・ 指導者の助言に基づき、学びを深めている

実習先からの評価



学生の自己評価



- 大変優れている
- 優れている
- 認められる
- 努力を要する
- かなりの努力を要する



### 3. 結果の分析

#### (1) 全体

- ①全体の項目として、明るさや礼儀正しさ、素直に聞く、また積極的に質問するという実習生としてのマナーや立ち振る舞いに関しては、園から高い評価を得ている。今後も実習の授業において、実習生としての基本的な挨拶や、質問のタイミングや内容、その他所作を伝えることが重要であると思われる。
- ②保育者の関わりや指針の理解等において、保育園の求めている段階に達していないことが課題であると思われる。
- ③全体として、総合的に6割の園が高評価であり、今後も知識や指導案作成等はもちろんのこと、マナーや立ち振る舞い、積極性のシミュレーションを引き続き強化することが求められる。

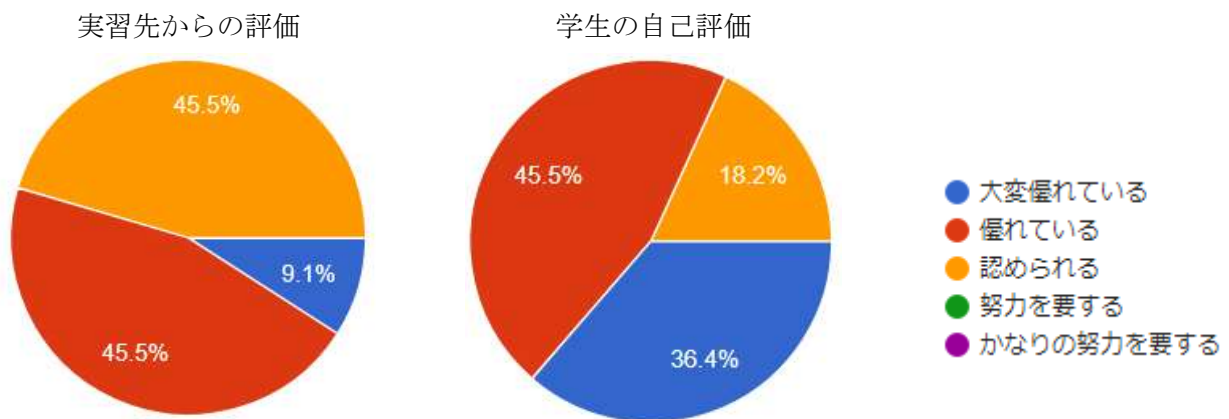
#### (2)項目別

- ①『(1)挨拶・明朗さ・礼儀・服装 ・明るく元気に挨拶し、適切な言葉で対応することができる ・礼儀をわきまえて行動できる ・保育士として、清潔で動きやすい服装である』においては、学生・保育園側の評価がほぼ一致し、園側の評価が上回る結果となった。基本である挨拶のシミュレーションや場面ごとの挨拶の所作等を授業等にて重視した結果であると思われる。
- ②『<知識・技能> (4)保育の観察・記録 ・子どもとの関わりを日誌などに具体的に記録することができる ・日々の関わりの中で気づきがあり次の目標につなげることができる』において、園側からは学生評価を上回る評価を得ているものの、努力を要するが8.7%あり、授業内において日誌記入のポイントや気づきをどう具体的に記入するか等の指導がさらに必要であると考えられる。
- ③<態度> (3)意欲・積極性 ・わからないことを積極的に質問することができる ・指導者からの指示を待つばかりでなく、自分から行動できる ・積極的に子どもに関わろうとしている』においては、授業において質問の具体的内容等を伝え、シミュレーションを行ったことが園側の評価につながったと考えられるが、努力を要する部分が8.7%あり、さらに意識して質問をするよう授業で指導する必要があると考えられる。

1. 結果

(1) <知識・技能> (1)保育についての理解

- ・児童館の目的・意義を理解している
- ・保育士の役割、援助や関わり、職業倫理を理解している



(2) <知識・技能> (2)子どもの発達理解

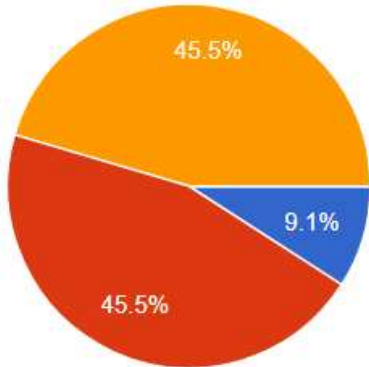
- ・子どもの心理的・身体的な発達過程について理解している
- ・子どもの安全や健康状態の把握に努めている



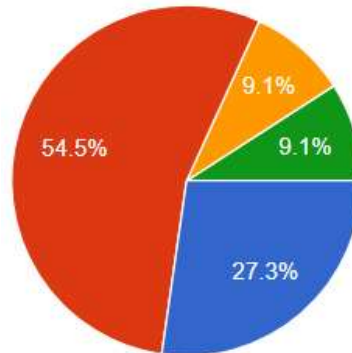
(3) <知識・技能> (3)保育環境の理解

- ・ 児童館の環境（1日の流れ）を理解している
- ・ 児童福祉法等を理解している

実習先からの評価



学生の自己評価

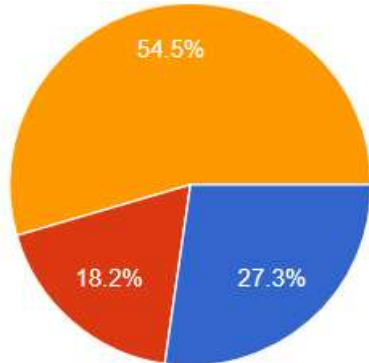


- 大変優れている
- 優れている
- 認められる
- 努力を要する
- かなりの努力を要する

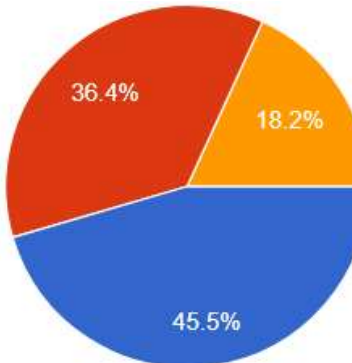
(4) <知識・技能> (4)保育の観察・記録

- ・ 子どもとの関わりを日誌などに具体的に記録することができる
- ・ 日々の関わりの中で気づきがあり次の目標につなげることができる

実習先からの評価



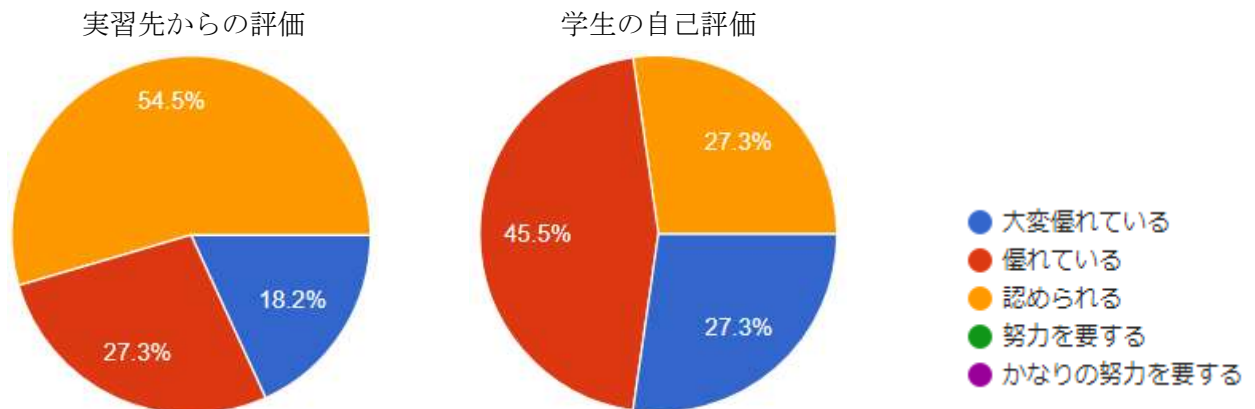
学生の自己評価



- 大変優れている
- 優れている
- 認められる
- 努力を要する
- かなりの努力を要する

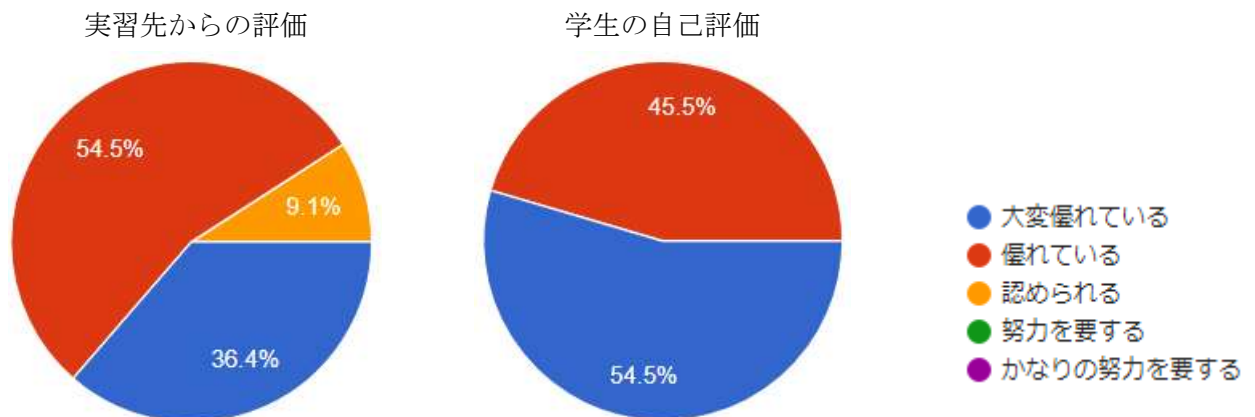
(5) <知識・技能> (5)指導計画の理解

- ・子どもの発達や児童福祉法等などの基礎的な知識を基に指導計画の立て方を理解している



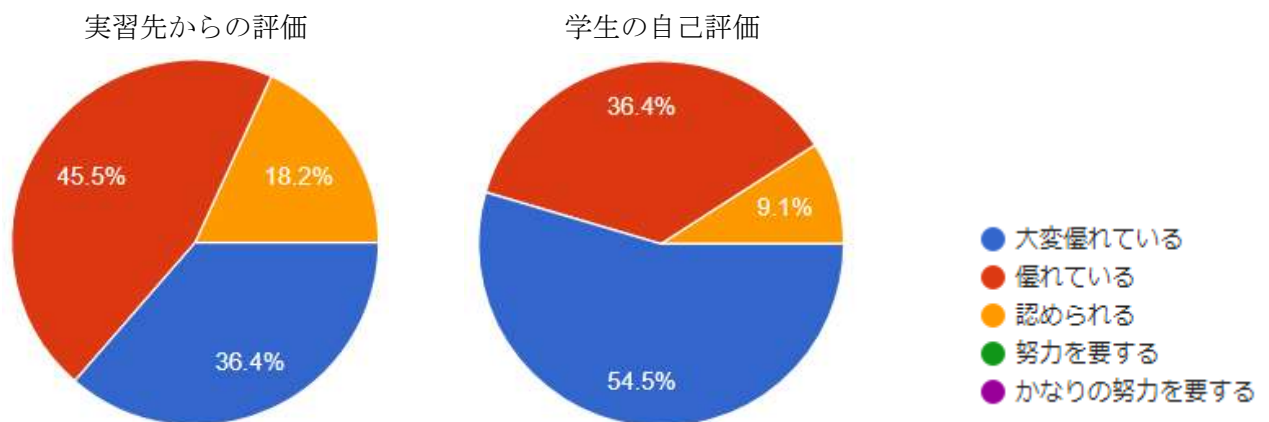
(6) <態度> (1)挨拶・明朗さ・礼儀・服装

- ・明るく元気に挨拶し、適切な言葉で対応することができる
- ・礼儀をわきまえて行動できる
- ・保育士として、清潔で動きやすい服装である



(7) <態度> (2)素直さ・協調性

- ・他者の言うことを素直に聞き、指導に従うことができる



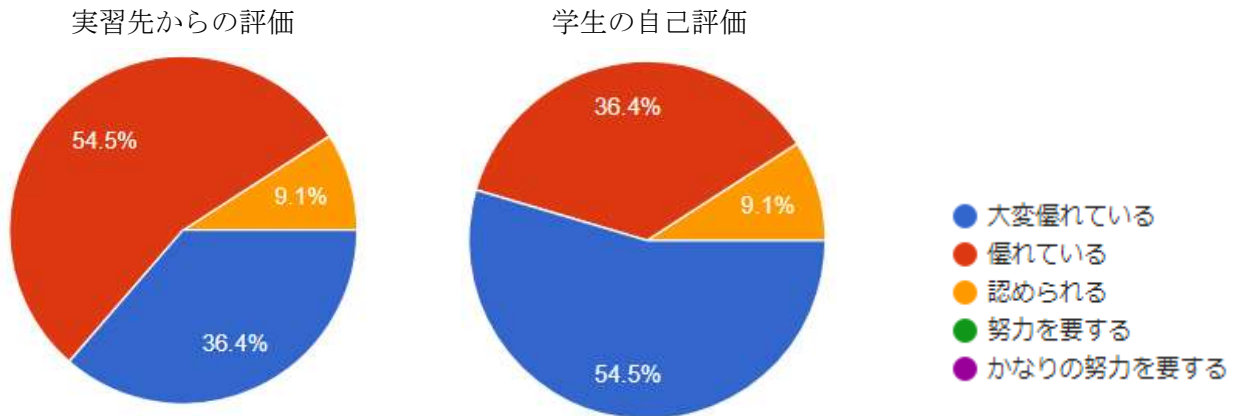
(8) <態度> (3)意欲・積極性

- ・わからないことを積極的に質問することができる
- ・指導者からの指示を待つばかりでなく、自分から行動できる
- ・積極的に子どもと関わろうとしている



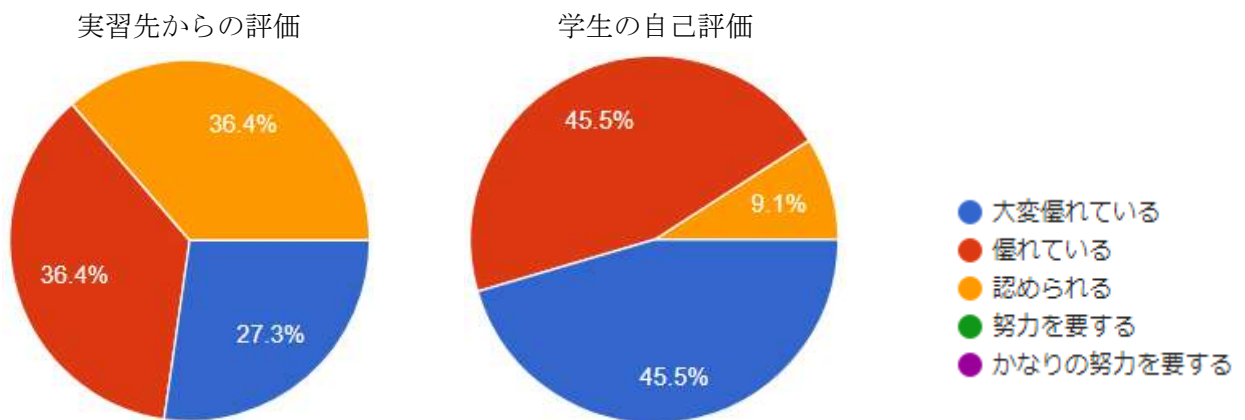
(9) <態度> (4)責任感

- ・計画的に行動し、提出物などの期限を守れる
- ・与えられた役割を期限までにきちんとかなすことができる



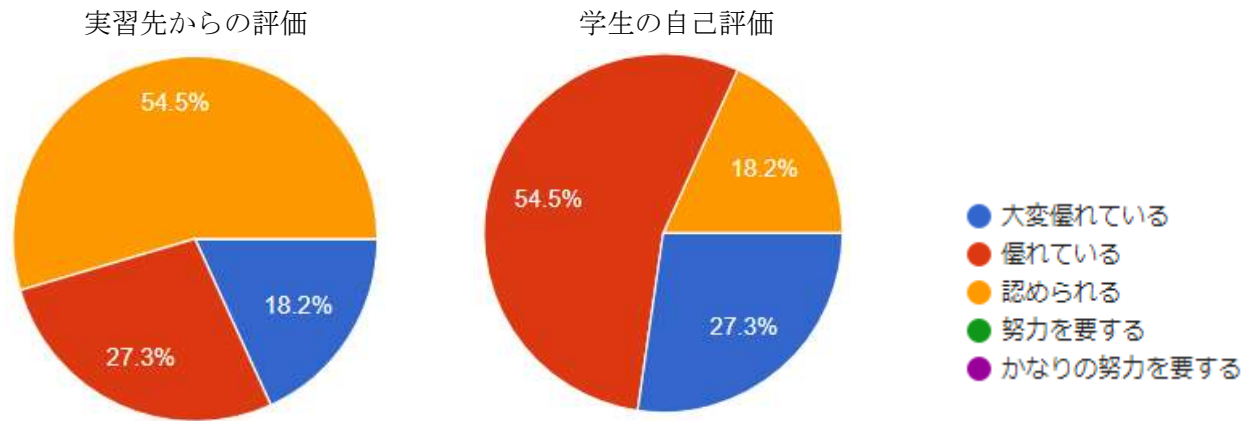
(10) <態度> (5)協働性の理解

- ・自分勝手に判断せず、わからないことは指導者に助言を求めている
- ・報告、連絡、相談を必要に応じてできる



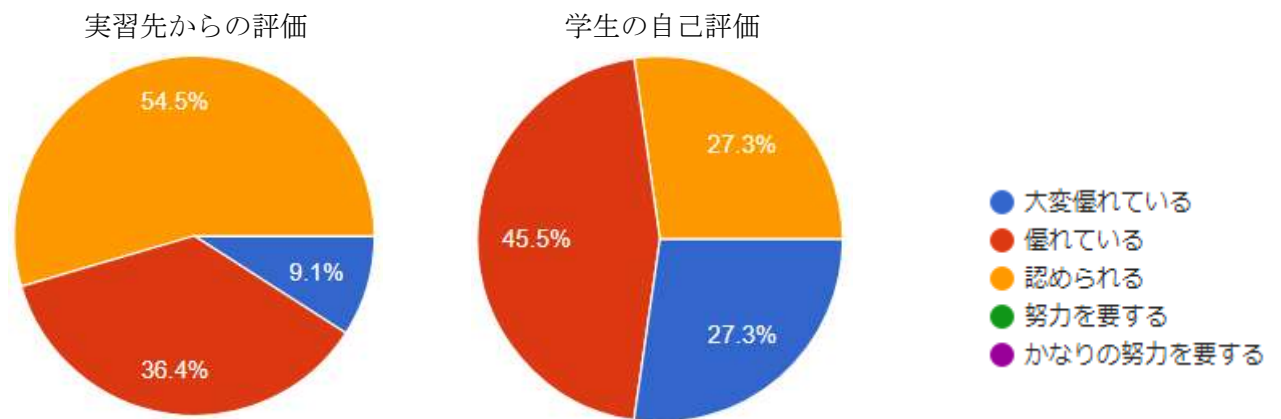
(11) <実践力> (1)保育実践

- ・教材を作成することができる
- ・指導計画案を基に子どもを指導することができる
- ・自己の課題を考察し、記録できる



(12) <実践力> (2)学びへの探究心

- ・多様な課題を認識できる
- ・指導者の助言に基づき、学びを深めている
- ・保護者や地域との連携を理解している



## 2. 結果の分析

<知識・技能>の児童館の意義の理解や子どもの発達理解、日誌及び指導計画の修得に関しては、学生の意識が十分でないことが実習先の評価より伺える。なお成績平均値は保育についての理解は3.7、子どもの発達理解は3.4、保育環境の理解は3.7、保育の観察記録は3.8、指導計画の理解は3.7であった。一方<態度>では、素直さや責任感においては学生の意識と実習先の評価は同程度であり実習に真摯に向かう姿が垣間見える。成績平均値は挨拶・明朗さが4.4、素直さ・協調性が4.3、意欲・積極性は4.1、責任感は4.4、協働性の理解は4.0であった。<実践力>においては教材を実際に子どもたちと作製する指導を含む内容においては、30%の自己高評価はあるものの20%に実習先に評価に留まっている。なお実践力の成績平均値は、保育実践が3.2、学びへの探求心が3.6であった。学びへの探求心や課題認識では全体にまだ学生の認識が低い結果となった。

今後は、児童館の意義や日誌の書き方、指導案の書き方などの理解を高め、実践的な模擬授業等により時間をかけて事前指導を行うことが求められる。

## 13. 責任実習(指導案を含む)で評価されたこと、褒められたこと(3行以上)

### 11件の回答

- ・ハキハキとした説明をしていて、後ろからだが見本が見にくい場合に近くに行ってもう一度同じ説明をしていたこと。また、紙皿を使ったヨーヨーだったが、子どもたちなりの遊びの展開もできる材料を使っていたこと。
- ・子どもたちの気持ちを汲み取り、一人ひとりに寄り添って工作を製作したところや普段の子どもたちの様子を参考に工作の案を考えていたところ、全体に分かりやすく丁寧に伝えていたところ。
- ・絵本の読み聞かせやパネルシアターなどを、積極的にやろうとする姿勢。反省を次に繋げようとしている姿勢。多くの年齢の子どもたちと関わろうとしていたこと。
- ・子どもの話をきちんと聞き寄り添いながら関わる事ができていた。指導案も子どもの様子にあったものと考えていた。また、全員同じものを作ることで貼り方や見え方の違いを楽しむことができていたと思った。
- ・子どもがオリジナルの作品が作れるような工夫が出来ていると褒めて下さった。また、指導案は細かく書けていて良いと言って下さった。
- ・子ども達の盛り上がっている声の大きさでも聞こえるくらいの大きい声で話せていた。臨機応変に対応し、ゲームを進めることが出来た。
- ・笑顔が素敵だと褒められた
- ・子ども達に積極的に関わっていた
- ・挨拶がきちんとできていた
- ・子どもたちが集中して実習生の話を聞いていたこと。細かく子どもたちの姿を想像できていて、指導案にも書けている。
- ・ぶんぶんごまに描くイラストをクイズからハロウィンにちなんだ形で字も大きく、興味をひくような工夫ができていた内容だったのがよかった。
- ・責任実習で評価、褒められたことは指導案を丁寧に書いていたこと、読む前に子ども達が集中できるような声かけをしていたことだと思う。



- ・スムーズにできていた。子供が楽しそうに行っていた。文字も大きくて良かった。参加賞まであってよかった。

#### 14. 責任実習(指導案を含む)で指摘されたこと・指導を受けたこと(3行以上)11件の回答

- ・宿題をやる前に時間を作っていたが、一つ一つの説明に時間をかけ、みんなができるまで待っていたので時間配分がうまくできなかったこと。
- ・子どもたちと遊ぶ際に、後ろや角などの教室全体が見渡せる位置に移動して、常に様子を確認しながら遊ぶこと。子どもたち一人ひとりに寄り添い、それぞれに合った関わりを心がけること。
- ・特にありません
- ・折り紙の方では、2人揃ってバタバタしてしまい対応ができていなかった。責任ではスイカの周りが皮だと思われていなかったからもう少し説明があればなお良かった。掲示できる場所がなかったけど開ける場所を用意して子どもの想像力を膨らませてよかった。
- ・環境構成として、工作をしたい子と工作以外で遊びたい子の両者の気持ちを考えて机の配置や工作の流れ、工夫を考えるべきだと教えて頂いた。
- ・考えた指導案の内容的に時間がかかってしまう物だったということと、ゲームの始まりや終わりが曖昧になってしまっていた。
- ・特になし
- ・指導案の時間の割り当てを分刻みで書くと自分が後で見返した時にわかりやすくて良いと思う。時間を少し超えてしまった点。(予定していた子どもの参加数を超えたため仕方ないと言っていました)
- ・紐を大きいものを用意するべきだったり、メリハリをしっかりとすること、注目させたいのに声の大きさが小さかったから大きくするべき
- ・指摘、指導を受けたことは大型紙芝居の読み聞かせをして登場人物に応じて読み方を変えると良いと言われたと思う
- ・こどもたちの3列作っていたときの列が少しギザギザしていたので、それをせいとんできたらなおよかった

#### 15. 実習で役に立った事前指導は何か、具体的な内容を記すこと(3行以上)11件の回答

- ・対象年齢を考慮した指導案を発表し、小学生にわかる言葉を選んだり、工作の難しさを考えたり、どこまで準備をしておくのか考えることが役に立ちました。
- ・児童館、放課後児童クラブの機能について詳しく説明を受けていたところ、子どもたちが実際にどのような生活をしていて、どんな学びをすれば良いのか目標をたてやすい指導を受けていたところ。
- ・施設の概要や役割を学び、どのように子ども達と関わるといいかや厚生員の役割などを事前に把握しておいたことが、オリエンテーション時や、実習中に役立った。
- ・みんなで行った実習の模擬授業です。小学生が楽しめるものはなにか具体的に考えることができ、自分以外の班の模擬授業を楽しむことができ、より考えが膨らんだことです。
- ・児童館の役割等を確認していったこと。グループになり指導案を作成し、先生役として遊びや工作を行ったこと。実習中の注意事項の確認を行ったこと。

- ・グループでの指導案の発表をして、先生方から良いところや、改善点を教えていただいたことで、実際の児童館での活動のイメージや内容を考えられたこと。
- ・授業中で指導案をグループで行ったこと 児童館での注意事項、役割を事前に学んだこと
- ・グループに分かれて、指導案を作成し、発表したこと。 児童館の役割について、学んだこと。 実習にあたっての注意事項を学んだこと。
- ・小学生との関わり方や言葉掛けの違い、保護者対応だったり、保育園との先生同士の関わり方や情報共有の違いについて、そしてなにより楽しむこと。
- ・基本的な児童館の役割、種類や児童厚生員の役割、意味については実習で役に立ったのではないかなと思う
- ・学校のみんで発表しあった指導案のことが役に立ち、すこし参考にもしました。褒め方や簡単さが分かりました

16. 学校の授業の中で取り組んでほしい事前指導は何か（既に取り組んでいる場合でも、さらに強化してもらいたいことがあれば記す）（3行以上）11件の回答

- ・指導案の発表をさらに強化し、工作だけでなく遊びの指導案もグループごと考え時間を決めながら発表した方が実際に遊びを考える時に役に立つと思います。
- ・どのような方針、管轄の児童館があるのか、実習先候補の施設の様子についてももう少し詳しく説明があると実習に安心して臨むことが出来ると思う。
- ・児童館ということもあり、一般の中学生が利用し、関わるという機会もあるため、年齢層を広げ、それにあった指導案の作成をそれぞれすること。
- ・小学生に対しての対応の仕方が全くと言っていいほど分からなかったので対応について考えるなどの指導が欲しいです。また、全員が揃っている状態で実習場所を決める対応をして欲しいと思いました。
- ・日誌の書き方を確認する。 実習中の注意事項等を確認する。 児童館の役割等を全員で確認する。
- ・指導案の発表を遊びのグループと、工作のグループで分けて、それぞれの雰囲気を知れるようにして欲しい。それぞれの指導案の書き方などを理解しやすい。

17. 今回の保育実習で学んだこと（3行以上）11件の回答

- ・児童館は対象年齢が異なるため言葉選びや支援の限度を考えなければならないということがわかりました。児童館は友達同士の関わりの中にもあるためこちら側から遊びを誘うのではなく、厚生員は傍で見守ったり、途中で参加したりとあくまで子ども同士の交流ということを忘れないでいることが大切であると学びました。
- ・子どもたちは一人ひとりの人間であり、一人ひとりが個性を持っている。また、様々な家庭環境の子どもたちが集まっているため、それぞれに合った丁寧な関わりが大切だということ。
- ・体を大きく動かして遊ぶ場所と落ち着いた遊びをする場所という空間の境がしっかりとしていました。体を動かしたい子が本を読んでいる子と同じスペースには両者とも安心して楽しく遊ぶことが出来ないと考えました。だから、図書室・ホール・教室をどのように使っていくか、スペースの使い方を工夫して環境を整えることも厚生員の役割だと学びました。
- ・小学生と関わる時に幼保のような声掛けではなく、具体的に子どもに伝わるような声掛けをする必

要があると感じました。また、今回初めて壁面制作をし、子どもがどんなものなら楽しめるのか具体的に考えることができ今後役に立つ学びになりました。

- ・児童館は誰かの心のよりどころになる温かい場所だと実感した。引っ越してきたばかりで知り合いがいないというお母さんに、他の親子と繋がるきっかけを提案したり、話を親身に聞いている様子を見て児童厚生員の役割や立ち位置を学ぶことが出来た。
- ・思った以上に子ども達は活発でパワフルだと知りました。活動をする時に子ども達をまとめる為に、それについていける体力や声の大きさなどが必要だと思いました。
- ・コミュニケーション力の大切さ ・笑顔の大切さ ・子どもたちの思いをくみとることの大切さ
- ・児童館は保育園や幼稚園と違い、年齢の幅が広がるので、難しすぎず、簡単すぎない活動はどのようなものか子どもたちの興味や関心を理解した上で考え、計画立てる難しさを学んだ。 コロナウイルスの影響で思い切って遊べる施設が少ない中で、児童館は子どもたちにとっての温かい居場所となっていることを学んだ。
- ・小学生で、盛り上がってしまい自分たちの声がなかなか聞こえないことがあるため、声を大きくだし、メリハリのある声掛けをするべきだということ。
- ・子ども達と関わることはもちろん季節に合わせた壁面を作るなど環境構成を整えることの大切さや乳幼児教室で子どもだけでなくお母さん達のサポートもしているのだと学んだ
- ・保育園生や幼稚園生とはまた違う大変さ関わり方が学べたと思います。遊ぶものもまた違ってすこし頭を使うようなものなどもあり楽しかったです

18. 保育実習Ⅲを終えて、今の課題は何か、卒業に向けて取り組みたいことは何か（3行以上）11件の回答

- ・課題として、作業の効率化と指導案の作成があります。作業の効率化は画用紙を切る際に1枚ずつ切るのではなく何枚か重ねて切るといった効率をよくすることを今後意識していきたいと思えます。 指導案の作成については、対象年齢を踏まえて何を感じて得てもらいたいのか目的を持った活動を考えられるよう今後も目的が何か明確にして考えていきたいと思えます。
- ・どの施設に行っても直ぐにその施設の特長や方針の理解に務め、子どもたちの様子と照らし合わせながらより良い実習にすること。卒業に向けて、授業の予習、復習の他にボランティアなどにも参加してみたい。一つひとつの経験、出会いを大切にしたい。
- ・子どもたちに対する声掛けや対応が、ほとんど同じになっていると反省しました。支援を必要としている子や消極的な子、積極的な子など子どもたちの個性を見極め、一人一人に合った対応ができるようにすることが課題です。
- ・子どもに対する声掛けのレパートリーを増やすことだと思います。同じような声掛けや、子どもに対しても遊びの提供ができなかったりと多くの壁にぶつかりました。保育者の姿や厚生委員、支援員の姿はもう見れませんが学んだことを振り返りながら日々学んでいきたいと思えます。
- ・今まで乳児・幼児との関わりしかなく、小学生と関わる際の工夫が難しく感じたため児童との関わり方も考えていきたい。また、文章を書く力をもう少し身につけていきたい。
- ・指導案の設定の仕方について。 より子ども達の活動を予想して、時間の設定をしたり、年齢ごとに内容を考えたりしていきたい。
- ・コミュニケーションが課題だと思う。児童館では保護者と話す機会が結構あるので、保護者の方が

相談しやすいと思えるような先生になるために日頃からいろんな人と話すことを心がけたい

- 子どもたちの興味や関心のあるものをよく理解し、子どもたちが楽しめるような活動を日々考えていくことで、子どもの心に寄り添い、意欲向上に繋げていきたい。掲示物や装飾などの製作物のデザインを研究したい。
- 声のボリュームを大きくし、全体に届くようにメリハリをつけた言葉掛けをする。また、しっかりとみんなに伝わるように情報共有を忘れないこと。
- 積極性に欠けていると思うので疑問に思うことは聞くようにすることが課題であり、卒業に向けても取り組んでいきたいと思う
- 今回の児童館での実習を通して、課題点は、部分実習で、ご指導いただいたことで、列をバラバラにならないようにすることです

1. 結果

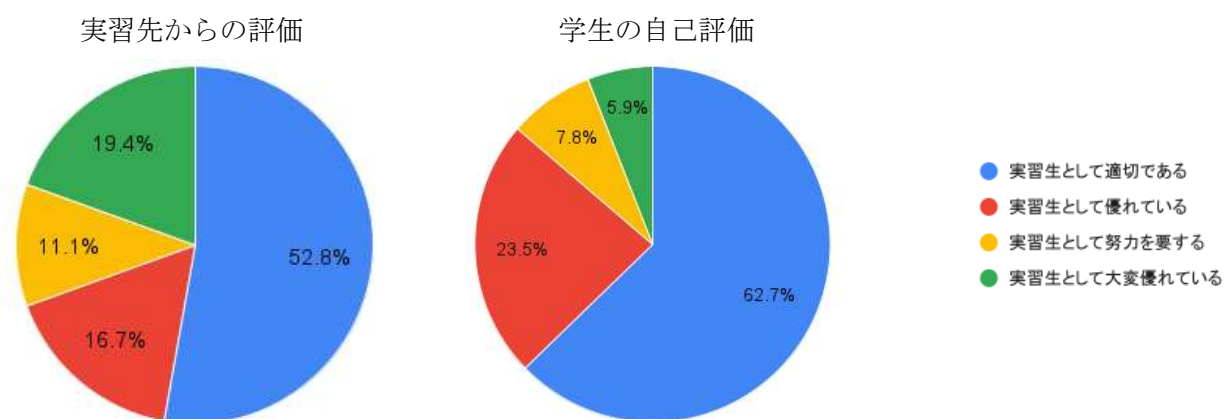
(1) <知識・技能> ①教育についての理解

- ・教育の目的・意義を理解している
- ・教師の役割、援助や関わり、職業倫理を理解している



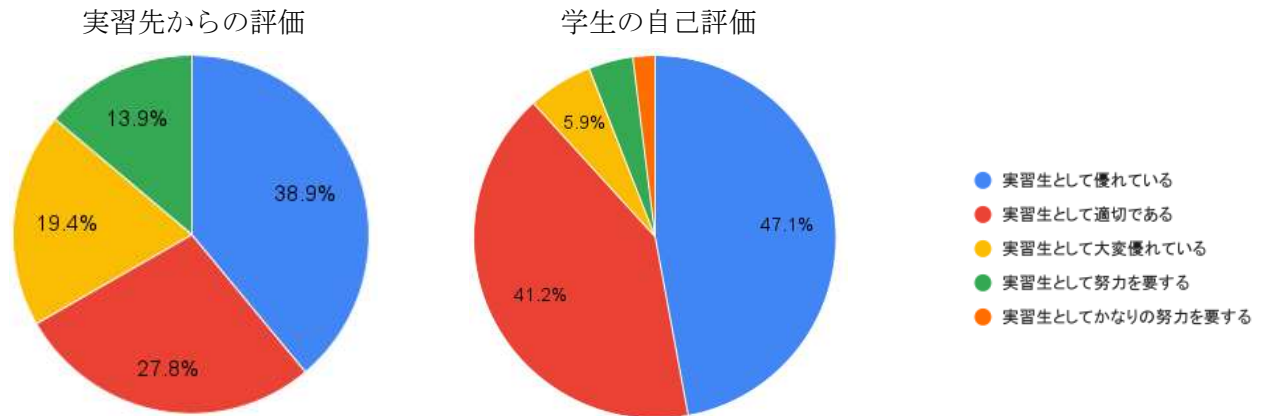
(2) <知識・技能> 子どもの発達理解

- ・子どもの心理的・身体的な発達過程について理解している
- ・子どもの安全や健康状態の把握に努めている



(3) <知識・技能> 教育環境の理解

- ・教育の環境（1日の流れ）を理解している
- ・幼稚園教育要領を理解している



(4) <知識・技能> 教育の観察・記録

- ・子どもとの関わりを日誌などに具体的に記録することができる
- ・日々の関わりの中で気づきがあり次の目標につなげることができる



(5) <知識・技能> 指導計画の理解

- ・子どもの発達や各種関係法令等の基礎的な知識を基に指導計画の立て方を理解している



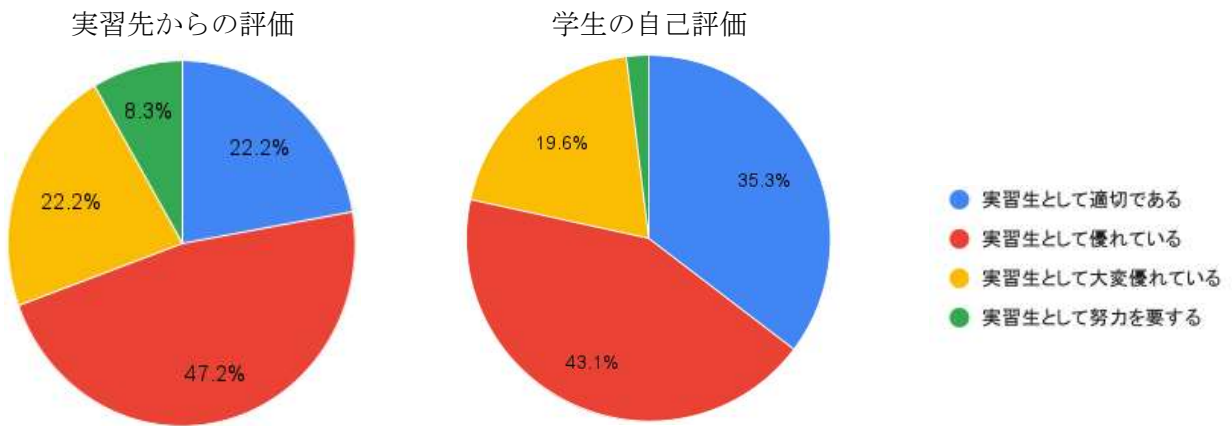
(6) <態度> 挨拶・明朗さ・礼儀・服装

- ・明るく元気に挨拶し、適切な言葉で対応することができる
- ・礼儀をわきまえて行動できる
- ・教師として、清潔で動きやすい服装である



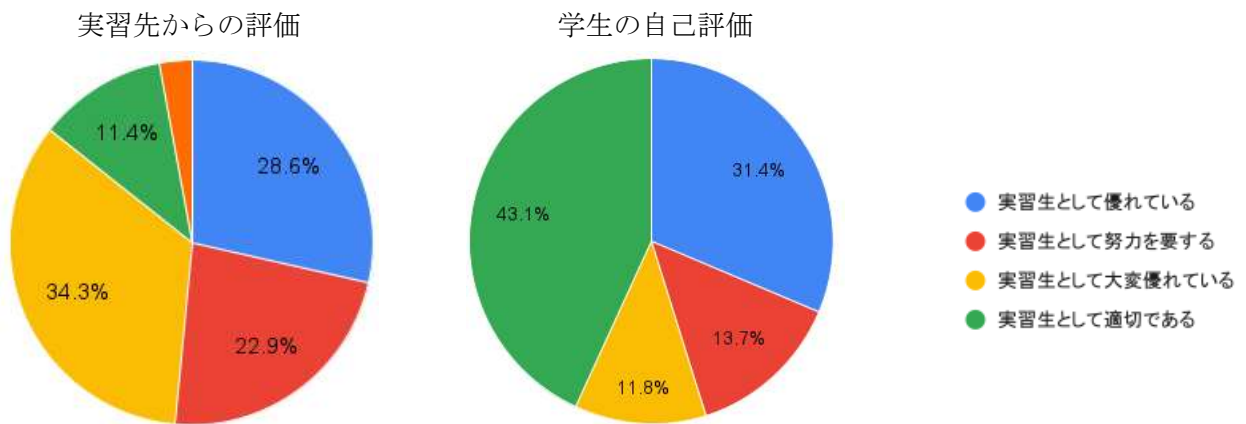
(7) <態度> 素直さ・協調性

- ・他者の言うことを素直に聞き、指導に従うことができる



(8) <態度> 意欲・積極性

- ・わからないことを積極的に質問することができる
- ・指導者からの指示を待つばかりでなく、自分から行動できる
- ・積極的に子どもと関わろうとしている





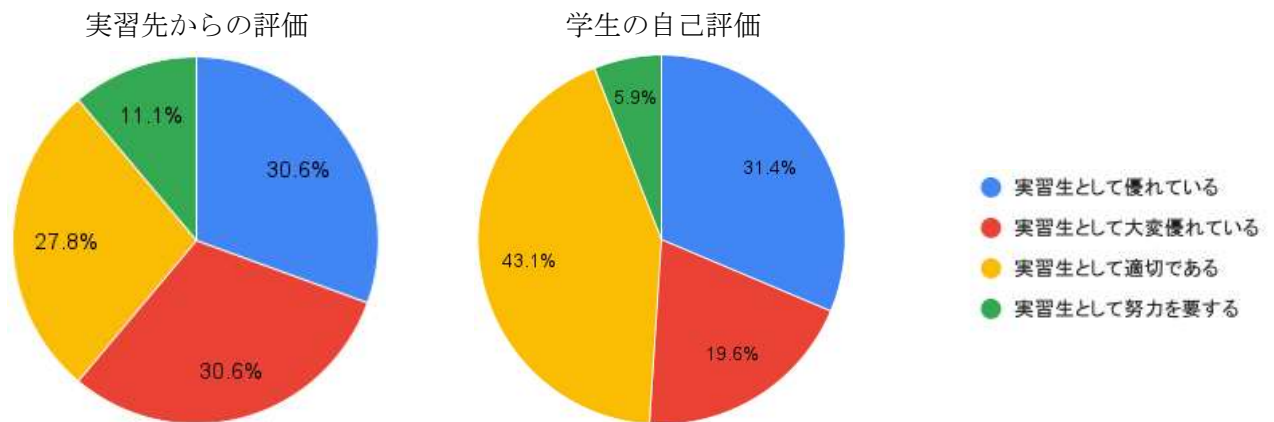
(9) <態度> 責任感

- ・計画的に行動し、提出物などの期限を守れる
- ・与えられた役割を期限までにきちんとかなすことができる



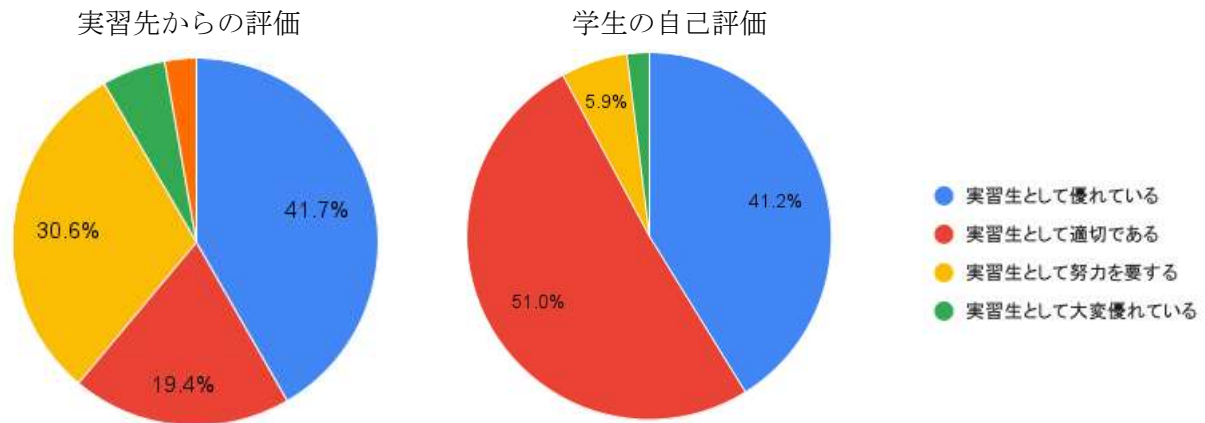
(10) <態度> 協働性の理解

- ・自分勝手に判断せず、わからないことは指導者に助言を求めている
- ・報告、連絡、相談を必要に応じてできる



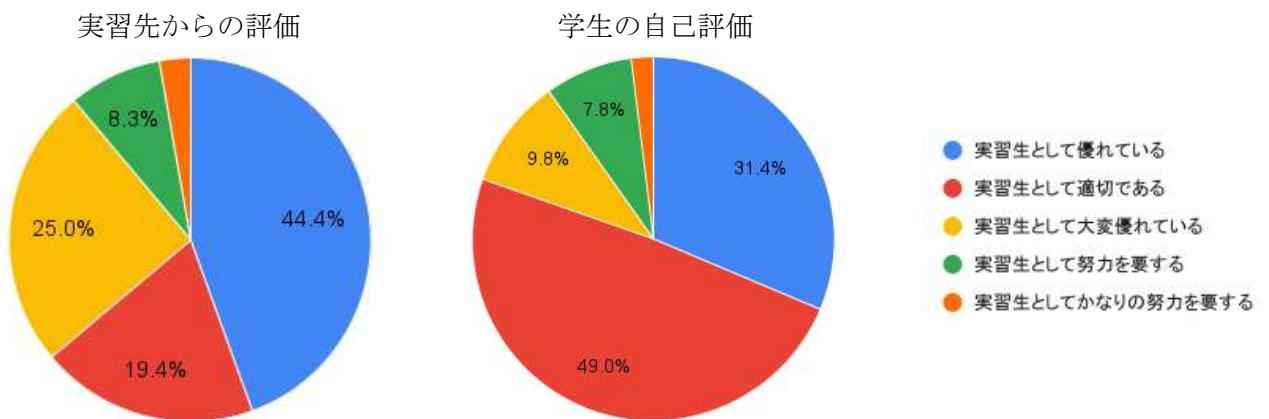
(11) <実践力> 教育実践

- ・教材を作製することができる
- ・指導計画案をもとに子どもを指導することができる
- ・自己の課題を考察し、記録できる



(12) <実践力> 学びへの探究心

- ・多様な課題を認識できる
- ・指導者の助言に基づき、学びを深めている
- ・保護者や地域との連携を理解している



## 2. 結果の分析

### (1) 全 体

多くの項目において学生による自己評価に比して実習先幼稚園からの評価が高く、「実習生として大変優れている」「実習生として優れている」の割合が大きい。また、一部の項目では、幼稚園からの評価が学生による自己評価に比して「実習生として大変優れている」「実習生として優れている」の項目が特に多く、乖離が観られた。

### (2) 項目別

実習先幼稚園からの評価と学生による自己評価で「実習生として大変優れている」及び「実習生として優れている」の評価が特に大きく乖離していた「(5) (項目) 知識・技能 (評価の内容) 指導計画の理解 (評価上の観点)・子どもの発達や幼稚園教育要領などの基礎的な知識を基に指導計画の立て方を理解している」「(12) (項目) 実践力 (評価の内容) 学びへの探求心 (評価上の観点)・多様な課題を認識できる・指導者の助言に基づき、学びを深めている・保護者や地域との連携を理解している」について記述する。

#### ① 「(5) (項目) 知識・技能 (評価の内容) 指導計画の理解 (評価上の観点)・子どもの発達や幼稚園教育要領などの基礎的な知識を基に指導計画の立て方を理解している」

学生による自己評価では、「実習生として適切である」が回答の約6割を占めていた。一方で、実習先幼稚園からは「実習生として大変優れている」「実習生として優れている」の回答が4割を占め、学生の回答と比してより高い評価であった。

#### ② 指導計画の理解、作成については、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」において1年次前期より理論を学習し、1年次後期からは教育実習に向けた事前指導である「教育実習指導」において学生一人一人が指導計画を立案し模擬的に実践を行っている。また、実習の場面では、実習生から積極的に子どもに関わることで実際の保育現場での子どもの姿を捉えるよう指導している。学生は実習場面で初めて理論と実際とを比較しながら子どもの発達の姿を理解していくが、その機会は教育実習を除くと保育実習Ⅰ(保育所)の経験のみであり、実際の子どもと触れ合う経験には限度があると考え。実習先幼稚園からも大きく期待されている実践知であることを受け止め、今後より重点を置いて事前指導を行いたいと考える。

#### ③ 「(12) (項目) 実践力 (評価の内容) 学びへの探求心 (評価上の観点)・多様な課題を認識できる・指導者の助言に基づき、学びを深めている・保護者や地域との連携を理解している」

学生による自己評価では、「実習生として適切である」が回答の半数に迫り、「実習生として大変優れていた」「実習生として優れていた」が約4割であった。一方、実習先幼稚園からは「実習生として大変優れている」「実習生として優れている」の回答が約7割を占めた一方で「実習生として適切であった」の回答は2割に満たず、学生の回答と比してより高い評価であった。

学びへの探求心については、教育実習に向けた事前指導として重要視している。特に、実習に向けた目標設定については特に課題として認識しており、学内指導の充実を図っている。長期間にわたる実習に向けて学び得べき目標を具体的に定めることで、実習をただ漠然と過ごすことなく有意義な実習ができていたものと考え。一方、学生の自己認識として探求心についての達成感が薄いことから実習目標の作成と実習目標作成の意義についての理解が課題であろう。学内での指導場面では一律的な指導内容だけでなく学生個々の実習目標、実習に向けた意欲を個別に指導すること

で一層の充実を図っていきたい。